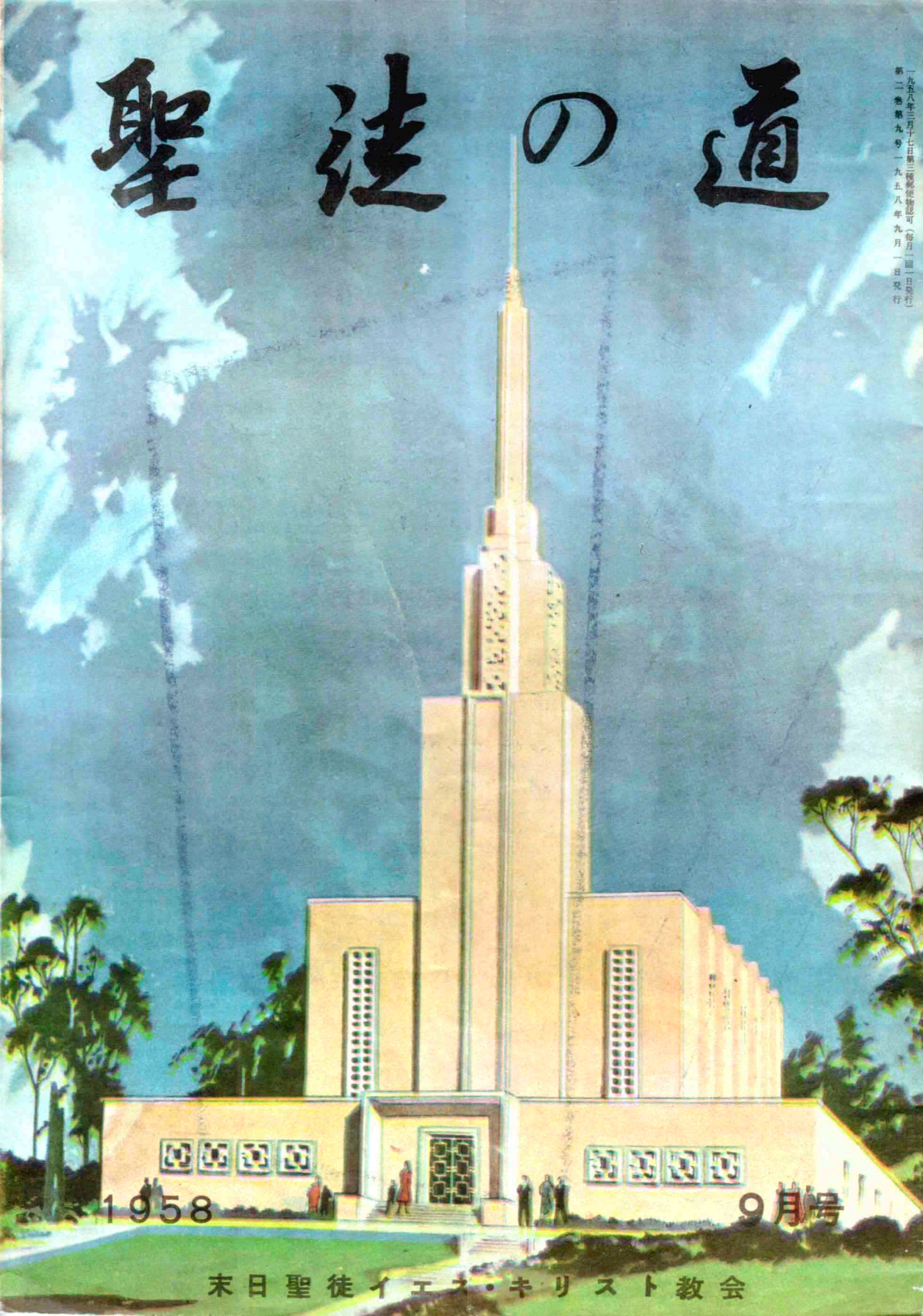
# 聖徒の道

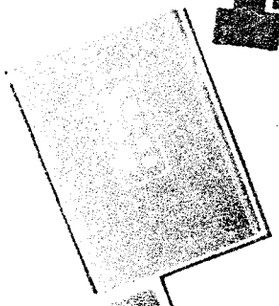
一九五八年三月十七日第三種郵便物認可（毎月一回一日発行）
第二巻第九号 一九五八年九月一日発行

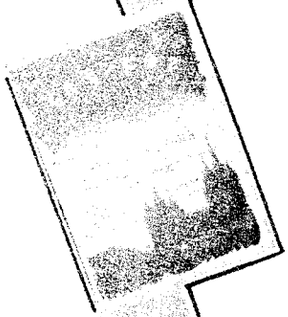


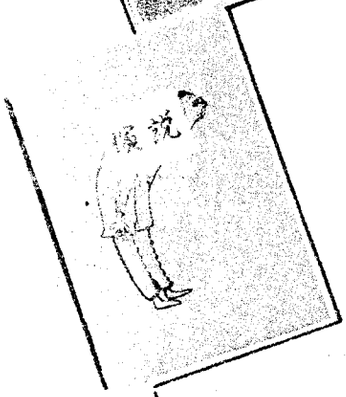
1958　9月号

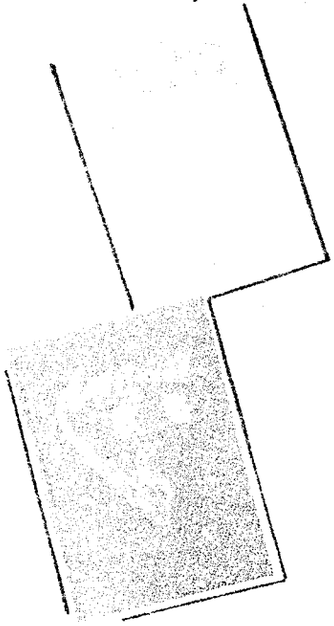
末日聖徒イエス・キリスト教会

# MIA 書籍 1958-59







福音のクラス用

我等の指導者の言葉・福音の生活 ¥100

モルモンとは？ ¥100

活動用

楽しいフォークダンス ¥50

社交ダンス必携 ¥160

レクリエーション歌集 ¥400

演説が上手になる法 ¥150

新しいゲーム ¥100

指導者用

役員と指導者の手引 ¥100

MIA読書課程用

教義と聖約 ¥300

# 「聖徒の道」

## 目次

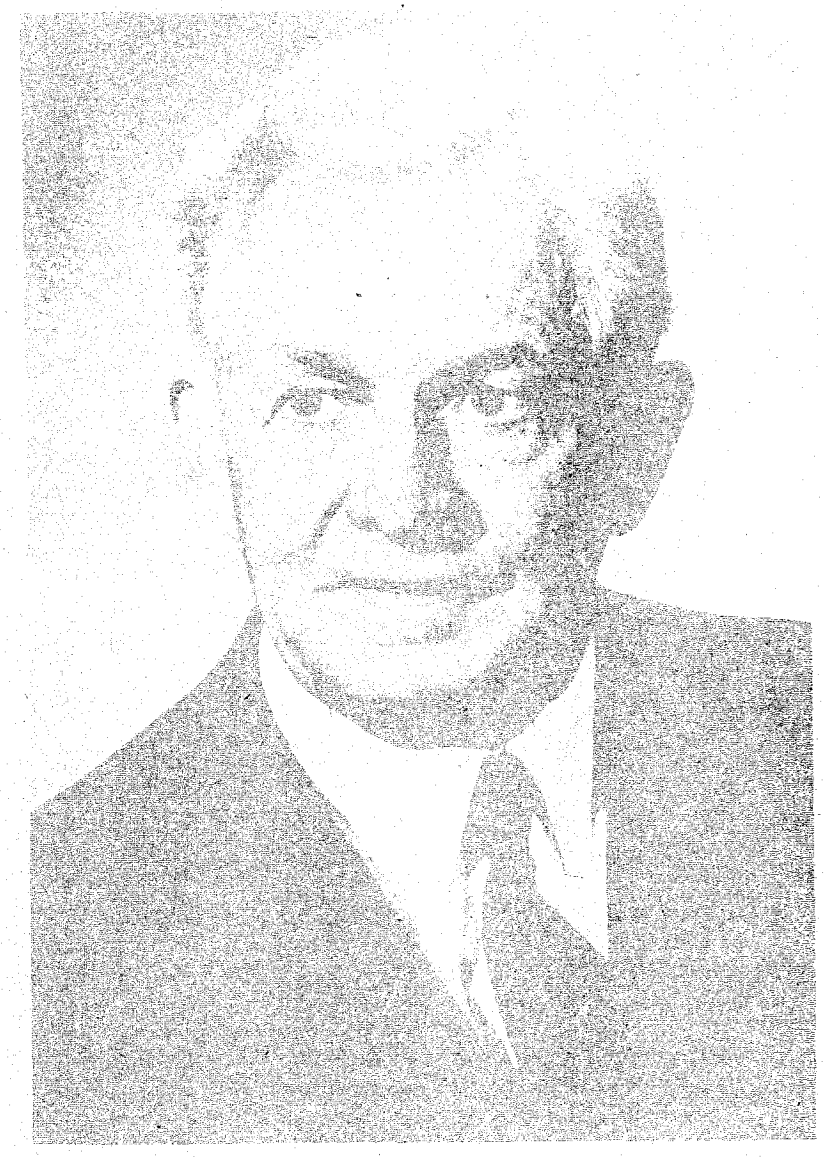

「大管長メッセージ」……
聖餐　デビド・O・マッケイ大管長　二頁
「伝道部長メッセージ」
神の王国は今や急速に成長しつつあり……
……伝道部長　ポール・C・アンドラス　四
よく祈れ……
……管理監督　ジョセフ・L・ウオーツリン　五
「GEMS OF THOUGHT」
選ばるる者少きは何故ぞ……
……十二使徒　スペンサー・W・キンボール　七
主と交わす三つの誓約　ソープ・B・アイザックソン　七
聖文の探求……十二使徒　マリオン・G・ロムニー　八
「質問欄」
「右手」について……　十
「表紙の説明」
大いなる愛の奉仕……　十四
モルモン経物語（一一）エマ・マー・ピーターソン　十五


一九五八年　九月号


「系図のページ」
ホームテイーチング（四）……　十八頁
系図協会のマイクロフイルム活動……　十九
「質問」……群馬　福沢昌子　大阪　坂本　弘　二一
第三回月例地方部合同系図委員会……　二一
系図協会総書記の回答文……　二二
「日本伝道部の回顧」（その二）高木富五郎……　二三
「ニュース欄」
MIAの授賞式……　二六
広島最近の活動……　二六
楽しい俳句の会……　二七
普天間の発展……　二七
前途明るい岡山……　二八
教会堂建築の希望……　二八
活潑な岡町……　二八
室蘭の一ケ月……　二九
伝道本部より……　三〇
「詩藻」詩　短歌　俳句……　三一
編集言……　三三

# 大管長メッセージ

デビド・オ・マッケイ大管長



聖餐

聖餐式または日曜学校に出席するわが教会の会員は毎週聖餐をいたゞくめぐみにあずかる。主がわれわれに与えたもうた神聖な儀式の中、聖餐式の執行に携る神聖な儀式は一つもない。これは一語一語われわれに与えられた祈りの一つである。神權を与えられている若い人々たちは、かの誓約を立る機会を会衆に与えるように頼まれる。

その誓約がまさに何であるか、手短かに胸の中でしまいまで言つてみたまえ。会衆を代表する二人の兄弟は、まず貴いこの御名によつて主に乞いねがし　パンと水とを「いただくすべての人々」のためにこれらの品を祝いきよめたまえと言う。それから「御子のからだ（血）の記念にこれをいただくよう、また喜びて御

子の御名を受け、御子を常に忘れず、またその下したまえる誡命を守ることを永遠の父なる神の御前に証明し」その結果「御子の『みたま』常に一同と共にましますよう」と祈るのである。

われわれは、聖餐をいただくために集り合う聖なる安息日に、お互いの前に於てまた神の御前に於て、証明をし約束をし義務を負うことを、また或ることを必ず行うと言うことを、常に雑念を止めて考えるであろうか。これらのことを心に留めよ。

第一、われわれは、喜んで御子の御名を受ける。御子の御名を受けることによつて、われわれは御子をわれわれの指導者としてまたわれわれの理想として選びとるのである。而して御子は全世界に於ける唯一人完全なお方である。

第二、御子を常に忘れず。日曜日だけでなく、月曜日にも、日常の行いにも、克己自制をするときにも。われわれの兄弟がわれわれを傷つけるとき、われわれは自己の感情にうち勝とうとし、同じ怒りの精神で報復をしようとはしない。これがキリストの精神であり、またこれがわれわれのした約束、すなわちこれらの高いキリスト教の標準、真のキリスト教徒の諸原則に達するよう必ず全力を尽すという約束である。

第三、われわれは「その下したまえる誡命を守ること」を約束する。すなわち、「什分の一」、断食の献げ物、智恵の言葉、親切、寛容、愛などの誡命を守ることを約束する。イエス・キリストの教会の会員の責任は大きいが、それは大きいだけそれだけ非常に立派である、それはこれらの諸原則に従うときに生命、すなわち永遠の生命を得るからである。

われわれが聖餐をいただくとき、われわれはもしも守らなければ性格を弱めるが、もしも守れば霊の成長と幸福に資する或ることを致しますと謹んで申し上げる。われわれの結ぶこの約束、この誓約をひときわ痛切に感ずるとき、わが教会の会員の霊性には多くのことがつけ加えられ、また聖霊の導きを得る資格がわれわれに与えられるにちがいない。実に、それこそわれわれが存在する主たる目的である。

ふさわしくないのに聖餐をいただくことは、霊の死に向う第一歩を踏み出すことである。何人も霊の感受性を弱めることなく、心中不正直であることはできない。罪悪は、打撃が肉体の感覚をまひ（六頁に続く）

# 伝道部長メッセージ

## 神の王国は今や急速に成長しつつあり

伝道部長　ポール・C・アンドラス

この王たちの日に天の神一つの国を建てたまわん。これいつまでも滅ぶることなからん。この国は他の民に帰せず、かえってこの諸々の国をうち破りてこれを滅せん。これは立ちて永遠に至らん。（ダニエル書二章四十四節）

私たち末日聖徒イエス・キリスト教会の会員として、この聖句が今や成就しつつあることを知って居ります。私たちは天の神がすでにこの世を訪れたまい、今や世界中で急速に成長しつつある神の王国を建てたもうたことを知って居ります。この教会すなわち末日聖徒イエス・キリスト教会がその王国であります。ダニエルの告げた予言の通り、この教会は全世界を満すまでつずけて成長するにちがいありません。復活したもうた主は間もなくいつかこの世へ再臨して親しく主の王国を統治したもうにちがいありません。私たちは、神が神の聖い「みたま」によってこの貴い知識をお与えになったからこれらの事は真実であることをよく知って居ります。

本伝道部に於ける神の王国は今やますます急速に成長して居ります。北部極東伝道部に於ける会員は、千九百五十八年七月末を以て過去二年間の二倍以上の二千三百十八名となりました。私たちは七月末まで千九百九十六名の日本人会員、二百三十六名の韓国人会員および八十六名の沖縄人会員があることを知ってあなたたちと共に喜ばしく思います。天にましますわれらの父の祝福により改宗者のバプテスマ数は増加をつずけて今年一月一日以来七月末までに四百十三名の改宗者がバプテスマを受けました。私たちは最近教会に加入された皆様へ特に歓迎の言葉を述べると共に、私たちはきっと皆さまを愛し、また天にましますわれらの父が皆さまに与えたいと思う数々の祝福と喜びとをことごとくあなたたち自身のために保証するようあらゆる方法であなたたちに奉仕したいとはっきり申上げます。

私たちが何時バプテスマを受けてこの教会へ入っても、私たちはバプテスマの水から出て来た時に一人のこらず新しい生活の道に入りました。その時私たちは、いつまでも変らずに努め励んで神の教えを履み行いますという神聖な誓約を神と結びました。

○・・サタンに打ち勝つ最良の武器・・・・

しかし、サタンは今も神に逆らい、またすべての義に逆らって戦って居ります。サタンは特にこの教会の会員たちに逆らって今も戦って居り、私たちを欺いて私たちがバプテスマの時に始めた新しくて義しい生活の道からよこしまな道へつれ去ろうとして居ります。サタンは今も私たちを神の真の教会の中で不活潑にならせ、そして永遠の死へ導く世の慣わしへまた知らず知らずに陥らせる強力な武器を使って居ります。

それでありますから、私たちはサタンの持っているいろいろの誘惑や巧妙な影響力と戦うために、私たちの持つ最も強力な武器を使わなくてはなりません。私たちの持っている最も強力な武器とは何でありますか。私たちはどのようにして最もよくサタンをしりぞけて世の誘惑にうち勝つことができますか。私たちの持つ最良の武器とは義であり、義とは神の誡命を守ることであります。私たちが教会の教えを実際に守る程度に応じて、私たちはいろいろな誘惑に抵

抗しまた私たちの生活へ入ってくるいろいろな困難にうち勝つ力を受けるにちがいありません。

この記事の中で、末日聖徒の一人一人がみな注意して守るべき非常に大切な一つの誡命を簡単に述べることにしましょう。この神権の時代に於て、私たちは「しばしば集れ」と命ぜられて居ります。私たちは、安息日には聖餐会に集って、聖餐をいたゞくことにより天にましますわれらの父と結んだ私たちの誓約を新にせよと特別に命ぜられて居ります。この誡命に忠実に従う人たちには偉大な約束がしてありますから、これを読む方々は「教義と聖約」の第五十九章をふり返ってみてその第十七節までを読んで下さいと申します。私たちが義しい生活をしてサタンの誘惑にうち勝つ力を増す最も良い方法は、聖餐会だけでなくその他の教会の集りにもできるだけ多く出席することであります。私たちが教会員同志しばしば交わることによって、私たちはますます力と教訓とを得ることができます。

○・・・各大会はこうして開かれる。

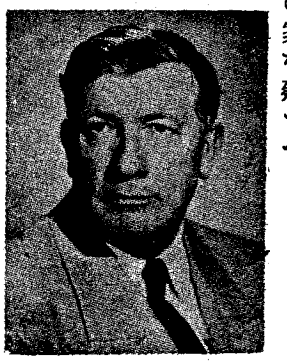
天にましますわれらの父はその偉大な智恵を以て、教会の会員たちに「しばしば大会を開け」とお命じになりました。これは大会を開くことによって如何に多くの利益を教会員が受けるかをよく知っておいでになるからであります。これに従って、教会の総大会は半年毎に一回ソルトレーク市のモルモン・タバナクルで開かれます。教会員は全部これらの会に出席するように招かれますが、タバナクルの中では八千人分しか席がないので、早く行った人たちだけ席に着くことができます。日旺学校、M・I・Aおよび初等協会の総大会もまた毎年一度タバナクルで開かれます。

## よく祈れ

管理監督

ジョセフ・L・ウオーツリン

この世のあらゆる民の中で、我々は最もよく祈りを捧げる民でなければならない。実に我々はヤコブの戒めに従って、高きより智恵を得るため絶えず神に祈り求めねばならない。何となれば主は我々に「汝ら組織して必要なる物をことごとく調えよ。而して、祈りの家、断食の家、信仰の家、学問の家、栄光の家、秩序の家、神の家なる一つの家を建つべし」（教義と聖約八十八章百十九節）と仰せになって居り給うからである。そして世にはあらゆる末日聖徒の家庭が神の家であってはならない理由は何一つとしてない。実にすべての家庭は神の家であってもよい筈である。何故ならば、殆んどの場合、あらゆる末日聖徒の家庭の頭には神権を持ちそして神を呼び求めて家内に住む人々のために恩恵と祝福とを乞い願う権利を持つ全能なる神の僕が立っているからである。



もし我々がよく祈りを捧げる民でなく、またこの地の王に在すイエス・キリストを忘れてしまうならば我々はこれらの祝福をすべて失ってしまうということを主は我々にはっきりと教えて居り給う。我々はアミュレクがその民に語った以下の言葉を心してよく聴くべきである。

「もしもこの地に住む義人たちの祈りがなかったならば、お前たちはすでに全く滅ぼされていたことであろう。しかし、それはノアの時代の人々のように洪水で滅ぼされるのではなくて、飢饉と疫病と剣によって滅ぼされるのである。見よ、お前たちの救われるのは義人たちの祈りによる。それであるから、もしお前たちが義人を追い払うならば、主はその御手をひかえたまわず激しく怒りながら来てお前たちを責めたもう。その時お前たちは飢饉と疫病とに苦しみ剣に悩まされるにちがいない。もし悔い改めなかったならばこの時がすぐとやってくる」と。

（アルマ書　十章　二十二節－二十三節）

現在教会の中では二百五十のステーキ部が組織されていて、このステーキ部の一つ一つは三箇月に一回ステーキ部大会を開きます。またステーキ部の中にあるワード部の一つ一つは年に一回ワード部大会を開きます。

また教会に四十六の伝道部が組織されて全部で三百十九の地方部がこの中にあります。そしてこの地方部の一つ一つは毎年二回地方部大会を開きます。

千九百五十八年七月一日附を以て、本州の地方部は再組織されて東中央地方部と西中央地方部とができました。これらの新しい地方部は、これらの地方部大会に出席する人々がなおさら偉大な教訓を受け、また新しい組織の下にあって主に仕えたいという願いをなおさら強められるにちがいないと伝道部長会が考えたから設立されたのであります。これから先私たちは、これらの二つの地方の各地方部大会に於て一千名近くの人々の出席が欲しいと思って居ります。今年の秋の各地方部大会ではおそらく六百乃至八百名の出席だけでありましょうが、来春にはもうこれら二つの地方部の大会に於て一千名以上の人々の出席があることを期待して居ります。これらの大会に出席する人々は霊の糧を得て、活気づけられ、それまでよりも一層良く神の誡命をふみ行う力を以てそれぞれの家や職場へ帰って行くにちがいありません。

ほかの支部よりも遠距離にある支部の会員たちは、地方部大会に出席するために今までより遠い道のりをやって来なくてはならない。またそのために一層多くのお金を要することは本当であります。それにもかかわらず、私たちは、教会の会員は一人のこらず自分の属する地方部の地方部大会のある毎にかかさず出席すべきであると思うのであります。

〇・・・大会出席費の募金計画は？・・・

従って、遠くにある各支部は、大会出席の費用がまかなえるよう支部の会員を助けるための資金をつくってはどうでしょう。各支部はこの資金のための募金計画を実施することもできるでしょう。そうすることによって、会員はさほど困難を感ぜずに一人のこらず大会に出席することができるでしょう。これにより、地方部大会に出席するために払うぎせいが如何に大きくても各自の地方部大会に出席する計画をするよう会員一人のこらずに勧告をいたします。大会に出席することによって受ける数々の祝福は、出席するために要する犠牲と働きとをつぐなって余りがあるにちがいありません。

私たちが一人のこらず聖餐会そのほかの集会、特に地方部大会に忠実に出席いたしますように心からお祈りいたします。そうすることによって、私たちは義しく生活してサタンに打ち勝つ力を得ることができ、また私たちが神の王国が成長するのを助けるとき常に心の中に喜びをもつことができます。それから、信仰と義によって最後まで堪え忍ぶことにより、私たちはわれらの父なる神のたもう最大の賜、すなわち永遠の生命を受けるにちがいありません。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

（三頁より続く）

させることができると同様に良心をまひさせることができる。或ることを約束してから故意にその言葉を守らない者は、罪悪に罪悪を重ねるのである諸々の原則を破って生きようとする人は、悪魔に欺かれて死の道に行くのである。自然の原則に基いて、そのような人は「食い且つ飲んでその霊に罪ありと定めらる」るのである。

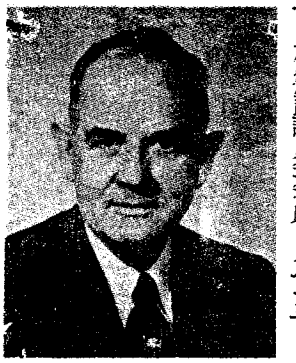
これは永遠の生命の一部分であって真の生命は福音の諸原則に服従するところに存する。われわれは安息日毎に以上に述べた諸原則を守ることを約束する。

而して、ふさわしい資格を以て聖餐をいただく時に現われる祝福とは何か。「かくして主の『みたま』常に一同と共にましまします・・・・・・・」。これは何という神々しい導きであろうか。私はあなたたちに、神の霊感は真に存在するものであることを証しする。生命と救いの諸原則に服従し彼らの罪を心から悔改め、また同しく心から福音の諸原則に一致して生きようと努める男女は、聖霊の導きを受け且つ聖霊によって霊感をうける。

# GEMS OF THOUGHT

## 「選ばるる者少きは、何故ぞ」

十二使徒諮議員会会員　スペンサー・W・キンボール



「神の業、計画、目的が破れ、また水泡に帰するは共に有り得べからず」。（教義と聖約三章一節）

しかし神の業と計画と目的とに敵対し戦う人は幻滅の悲哀を感じ、失望と悲惨な境遇に陥るであろう。主は「およそ教えにそむく者たちは大いなる悲しみに刺し貫かれん」。（教義と聖約一章三節）と仰せになって居り給う。

「何人かよくかよわき腕をさし伸べて、神の命じたまえる水路を流るるミズーリの流れを止め、またはこれを逆流せしむることを得んや・・・・」。

選ばるる人が少いのは、そもそも何の故であろうか。

「そは、人々の心甚しくこの世に　属けるものの上にあり、唯々人間の誉を得ることのみ望み、次の如き一つの戒めを知らざるによる。曰く、神権の権能は天の能力と固く結びつきて離るべからざるものにして、天の能力は正義の原則によりてのみ支配し運用し得るものなり、と。この権能のわれらに与えらるる事もあらんは真実なり。されどもし己が罪を蔽いかくさんとし、われらの高慢、空しき野望を充たさんと企て、または幾分にても正しからざることによりて人の子らを支配し、統御し、強制せんとする時は、見よ諸天は退き去り、主の「みたま」悲しむ。主の「みたま」退き去らば、神権またはその人の権威は終りなり。見よ、その人いまだ覚らざる前、独り置かるるままにとげあるむちをけり聖徒を迫害し神に逆きて闘をなす」（教義と聖約百二十一章三十三節－三十八節）

主に戦をいどむ人々、主の聖なる儀式を足げにし、ないがしろにする人々、主の立て給うた指導者に反抗し戦う人々について、主は「わが聖任したる者をしいたぐる者は皆のろわれよ。また主は云う。わが前に罪を犯さずしてわが心に善しと適うところわが命じたるところを行いたるに、これを指して罪を犯せりと叫ぶ者は皆のろわれよ、と。然も罪を叫ぶ者かえって罪を犯すなり。そは、彼らは罪の僕にして、誠に不従順の子らにほかならざればなり。・・・・・実に彼らは禍なるかな。彼らわが小さき者たちを罪に陥したれば、わが宮居の儀式より除かるべき者なればなり」、と仰せになって居り給う。（教義と聖約百二十一章十六節－十八節）

## 「主と交わす三つの誓約」

管理諮議員会会員　ソープ・B・テイザックソン

もし皆様方がこれらの集会所にやって来られ、聖餐に与りさえすれば、これらの集会所は皆様方にとってもまた皆様方の子供達にとっても大いなる価値をもたらすものとなるに違いありません。

私は時々果してこの教会の人々が本当に聖餐の価値を理解し感謝しているであろうかといぶかしく思うことがある。これらの真新しい、きれいな集会所に恵まれた私達は聖餐会の出席率が五十パーセント以下であって満足してはならない。

おゝ、両親である皆様方よ、もし私達が子供達をつれて、聖餐会に出席しさえすれば、それはどんなにすばらしいことであろうか。その会に於て讃美歌が歌われ、祈りが捧げられ、すばらしい聖餐が執行されるだけであっても、もし私達が主の聖日に主の家に集って聖餐に与り、主と交わした

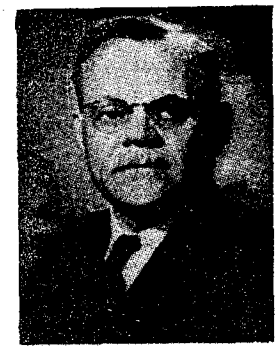
私達の聖約を新たにするならば、私達は大いに恵まれ、また力を与えられるであろう。

聖餐に与る時、私達は主と三つの聖約をなすのである。第一に私達は御子、イエス・キリストの御名をひきうけるということを誓約する。これは私達がその御名を自らの身にひきうけた御方の御旨に、働きと行いとをもって沿うよう努力するということを意味する。第二番目に私達が生きることができるようにするため、死に給うた御方を忘れないということを誓約するのである。即ち私達がその罪の赦しと永遠の生命を得ることができるよう、私達のために犠牲にし給うた体と流し給うた血を忘れずに憶えるということ即ちその犠牲と苦痛を思い起すということを誓約するのである。そして更に私達は永遠の御父なる神の誡命を守るということを誓約するのである。

おゝ、私達がこれらの聖餐会を一杯の人々で埋めつくし、定期的に聖餐の祝福をうけまた聖餐に与ることができさえすれば、私達はよりよきことをなすことができるに違いないと信ずしまた私達はもっと恵まれるに相違ないと私は考える。

# 聖文の探求

十二使徒会員　マリオン・G・ロムニー



聖文は人に対する神の言葉を含んでいる。末日聖徒は大部分のキリスト教徒によって唯一の聖文とされている聖書に加えて、モルモン経、教義と聖約及び高価なる真珠を聖文として受入れている。

主題の探求と言う言葉は、たずね、学び、その意味の発見の目的の為に検査することである。探求は単に読むこと或は記憶すること以上のものである。

イエスがユダヤ人に「聖文を探し求めよ」と言った時、彼は自分ら自身を聖文によく通じていると誇っている人たちに対して語ったのであった。彼等は聖文を読み且つ記憶することにその生涯を費して来たのであった。彼等はその宗教せる規則及び儀式を支持する為多くの聖文を引用することが出来またして来たのであった。然しながら彼等は聖文の真のメッセージを発見することに完全に失敗したのであった。

貴方はこれ等のユダヤ人たちが安息日にイエスが病人を癒したことによりモーセの律法を破ったと叫んであら探しをしていた事を記憶しているであろう。然しながらイエスは彼等のつまらぬ技巧に争っている無駄な時間がなかった。安息日の主であったイエスはそう宣言して彼等の悲難に答え、彼等がイエス御自身とその御父なる神との関係を拒否したので、彼等に彼等が自ら熟知していると主張した神の言葉について真実の知識を持っていないと告げた。赤面させるような卒直さを以て彼は彼等に言った。

「汝らは聖書に永遠の生命ありと思いて之を査ふ、されどこの聖書は我につきて証するものなり」（ヨハネ伝　第五章三十九節）

彼等が若し聖文を理解していたら約束された救主に就ての予言者たちの予言を受入れイエスの内にその成就を認めたであろう。

・・・探求と曲解の区別・・・

イエスの生涯とその教えの中からのこの事件は写実的に聖文の探求と曲解を区別し恐るべき曲解の結果を表示している。イエスによって命ぜられたように聖文が教えるところのものを発見する目的の為に探し求めることは先に決めた結論に利用する文句を見つける目的であさるのと遥かに相違しているのである。アルマは言った。

「ごらん、聖文はあなたたちの前にある。あなたたちがその意味を曲げて解釈するならばあなたたちは亡びる」（アルマ書第十

三章二十節）

すべての神権の時代を通じて人々は天よりイエス・キリストの福音に就て教え訓されて来た。これ等の教え及び訓しは聖文の中に保存されて来たから、誰でもその意志のある者は誰を礼拝し、如何に礼拝し、人生の目的を完成して約束の報いを受ける為に如何に生活すべきかを学ぶことが出来る。只聖文の中にのみ次のように現された。

「永遠の生命は唯一の真の神にいます汝となんぢの遣し給いしイエス・キリストを知るにあり」（ヨハネ伝才十七章三節）

モーセの書いたものは昔のイスラエルの聖文を構成している。その内には律法の書も含まれていた。主はイスラエルの民に繰返し繰返しこれ等の聖文を探し求めて律法に従って生活するようにすすめた。イスラエルの民をヨルダンを越えて約束の地に導いたヨシュアに彼は言った。

「たゞ心を強くし勇み励んで我が僕モーセが汝に命ぜし律法をことごとく守りて行え。之を離れて、右にも左にも曲るなかれ。然ば汝いづくに往きても利を得べし。この律法の書を汝の口より離すべからず、夜も昼もこれを念いて其中に録したる所をことごとく守りて行え。然らば汝の途福利を得汝かならず勝利を得べし」

（ヨシュア記　才一章　七節－八節）

律法に従って行わねばならぬ必要条件の故にヨシュアは夜も昼もこれを念うたのであることに注意せよ。

イスラエルの民の物語りは一連の長いもので宏大深淵でその中には光あり蔭がある。その民もまた彼等の文明も、彼等が聖文の律法を探求して従うか或は無視して拒絶するかによって勃興したり没落したりしている。

バビロンに捕われて後エルサレムに戻ったへりくだったユダヤ人たちは先づ集合して、学士エズラに主がイスラエルの民に与えた誡命であるモーセの律法の書を持って来るように命じた。

「ここに民みな一人の如くになりて水の門の前なる広場に集り学士エズラに請いてエホバのイスラエルに命じたまいしモーセの律法の書を携えきたらんことを求めたり。この日すなわち七月一日祭司エズラ律法を携え来りてその集りをる男女および凡て聴き了ることを得る所の人々の前に至り水の門の前なる広場にてあけぼのより日中まで男女および了り得る者等の前にこれをよめり民みな律法の書に耳を傾く。学士エズラこの事のために預て設けたる木の臺の上に立たりしがその傍には右の方にマッタテヤ　シマ　アナヤ　ウリヤ　ヒルキヤおよびマアセヤ立をり左の方にペダヤ　ミサエル　マルキヤ　ハシュム　ハシバダナ　ゼカリヤ及びメシュラ立ちおる。」（ネヘミヤ書　才八章　一節－四節）

イザヤの忠告は聖文の教えによって「みこ」及び魔術者を試して見よとのことであった。

「もし人なんぢらにつげてみこおよび魔術者のさえづるが如く細語くがごとき者にもとめよといわば民はおのれの神にもとむべきにあらずや、いかで活者のために死者にもとむることを為んといえ。たゞ律法と証詞とを求むべし、彼等のいうところ此言にかなわずしののめあらじ」

イエスは復活して後、ニーファイ人の間に現れたもうた時彼等に聖文を探求するようにすゝめられた。イザヤの言葉を推奨しながら彼は言った。

「見よ、まことに汝らに告ぐ。汝らはこれらの聖文を研究せざるべからず。われは汝らにこれらの聖文を熱心に研究せよと命ず。イザヤの言葉は、まことに偉大なる価値あり。

されば、汝らもわが言葉に心を留めてわれがすでに汝らに告げたることを書き記せ。さらば、それらのことは御父のみこころのままにまた御父の定めたもう時に異邦人に伝わり行くべし。わが言葉に聞き従い、悔い改めてバプテスマを受く

る者はみな救われん。これらのことを証する予言者多ければ、予言者たちの言葉を研究せよ」と。

それから彼は聖文の重要なことを強調し、ニーファイ人たちに彼等が省略した或ことを聖文中に書き入れるように命じた。（ニーファイ第三書　第二十三章六節－十四節参照）

・・・先つ我が言葉を得んことを求めよ・・・先の神権の時代と同様にこの最後の神権の時代に人々は天から直接イエス・キリストの福音に就て教えられ命ぜられた。教義と聖約のはしがきに主は言われた。

「人々よ、これらの誡命をしらべよ。そはこれらは真実確なる誡命にして、その中に言われたる予言も約束もすべて成就さるべければなり。」（教義と聖約　第一章三十七節）

初期の兄弟たちは常に啓示の内に示されたるものを学ぶようにすゝめられた。主はヘイラム・スミスに言われた。

「わが言葉を宣べんと求むることなかれ。然らずして、まずわが言を得んことを求めよ。・・・・・・すでに人の子の中に出で行きたるわが言を究め、また人の子らの中に出で来るべきわが言、すなわち今翻訳をなしつゝあるわが言を究めよ。まことに汝はついに今の代にある人の子らにわが与えんとするものを悉く得ん」（教義と聖約第十一章二十一節－二十二節）

予言者ジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリに彼は言った。

「見よ、われ汝らに告ぐ。汝らは聖典を学び・・・・ために専ら汝らの時を費すべし」（教義と聖約　第二十六章一節）

教会の律法として知られている大いなる啓示に書かれている。

「汝の受けたるところのもの、すなわちわが聖典の中にて律法として汝に与えられたる事は、すべからく取りて以てわが教会を支配する律法となすべし。この律法に従いて行う者は救われ、これに従わざる者にしてもし引きつづき従わざれば救われざるべし」

聖文に定められた教会の律法に従ってなすか或はなさないかによって救いか滅びかの何れかとなる。自己の救いを達成するための一条件として聖文の探求ほどに強く命ぜられるものは他にないと云っても過言ではないだろう。

# 質問欄

## 右手について

「質問」

われわれは教会で聖餐は右手で載かねばならないと教えられた。何故左手で載くのはあやまりか。

「解答」

この種の質問は時折出される。ある時一人の兄弟が聖餐はどちらの手で載いても良いのだと主張しているのを耳にした事がある。また、あるステーキ部で人を按手聖任する場合、権能を有する人たちが円く輪になって立ち、右手を上げ左手を祝福また聖任される人の頭の上に置くのが習慣であった。故に按手礼や聖餐式に於て右手を使用する事についての質問が生ずるのは当然であろう。

左手でなく右手を使って儀式を執行する事は世界のすべての人々の習慣であり、教会のみに限られた事ではない。「宣言」を行う政治団体などでは、新たに職務につかんとする者は右手をあげて宣誓するように求められるし、またある場合には、聖書の上に右手を按いて忠誠を誓わされることもある。この習慣は初代より伝えられたもので、数多くの聖文によると神がこの習慣を認めたも

うていたという事をうかがい知る事が出来る。アブラハムは息子のイサクのために妻を探すように親戚へ召使を遣わした時まず召使の手を自分のものの下に置かせその使命をたしかに遂行する事を誓わせた。（創世記二十四章二節）これに類似する例は他にも幾つかある。記録されている最初の事はヤコブが自分の孫であるマナセとエフライムに与えた祝福である。（創世記四十八章十三節－十九節）

マナセは長子であり、ヨセフが二人の子供（すなわちマナセとエフライム）をヤコブのところへ連れて来たとき、「ヨセフ、エフライムの右の手を執りてヤコブの左の手にむかわしめ、マナセの左の手を執りてヤコブの右の手にむかわしめ、二人をみちびきてかれに就きければ、イスラエル右の手をのべて季子エフライムの頭に按き左の手をのべてマナセの頭におけり。マナセは長子なれども、ことさらかくその手を置けるなり。」また、十七節には次のように書かれている。

「ヨセフ父が右の手をエフライムの頭に按けるを見てよろこばず、父の手をあげて之をエフライムの頭よりマナセの頭に移さんとす。ヨセフすなわち父に云いけるは然にあらず、父よ是れ長子なれば右の手をその頭に按きたまえ。父こばみて云いけるは我知る、わが子よ、我しる彼も一つの民となり、彼も大いなる者とならん。然れどもその弟は彼より大いなる者となりてその子孫は多くの国民となるべし」。

エジプト人が江海で亡ぼされた時、イスラエル人たちは次の如く歌った。「エホバよ、汝の右の手は力をもて栄光をあらわす。エホバよ、汝の右の手は敵を砕く」。（出エジプト記十五章六節）そしてイスラエル人たちが承け継ぐべき地に入る前、主エホバは山羊を殺しその血を捧げるようにモーセに命じたもうた。

「汝すなわちその牝山羊を殺しその血をとりてこれをアロンの右の耳及びその子等の右の耳の端につけ、またその右の手の大指と右の足のぼ指につけその血を壇の周囲に灌ぐべし。また壇の上の血を取り灌油をとりて之をアロンとその衣服及びその子等とその子等の衣服に灌ぐべし。かく彼とその衣服及びその子等とその子等の衣服きよくなるべし」。以上の儀式により、アロンとその子供たちは主の御前にきよめられたのである。（出エジプト記二十九章二十節－二十一節）

右手、右側を好むという事は人間のやり始めた事ではなく、太初に神より啓示されたものである。主はイザヤに次のように仰せになった。

「恐るるなかれ、我なんじと共にあり、驚くなかれ、我なんじの神なり。我なんじを強くせん、誠になんじを助けん、誠にわがたゞしき右手なんじを支えん。視よなんじにむかいて怒るものはみな恥をえてあわてふためかん。なんじと争つものは無き者の如くなりてほろびうせん。なんじ尋ねるとも汝とたゝかう人々にあわざるべし・・・・。そは我エホバなんじの神はなんじの右手をとりて汝にいう、おそるるなかれ、我なんじを助けん」と。

（イザヤ書　四十一章十節－十三節）

また、主は次のようにも云われた。「ヤコブよ、わが召したるイスラエルよ、われにきけ、我は是なり、われは始めまた終りなり。わが手は地の基を置え、わが右の手は天をのべたり。我よべば彼らもろともに立つなり。」（イザヤ書四十八章十二節－十三節）

詩篇の中にも次の如き聖文が見出される。

「エホバわが主にのたもう、我汝の仇を汝の承足とするまではわが右にざすべし」（詩篇　百十篇　一節　マタイ伝二十二章四十四節）

イエスは十字架にはりつけにされる少し前、弟子たちに次のように申された。

「人の子その栄光をもて、もろもろの御使を率いきたる時、その栄光の座位に坐せん。斯て、その前にもろもろの国人あつめられん、之を別つこと牧羊者が羊

と山羊とを別つ如くして、羊をその右に、山羊をその左におかん。爰に王その右におる者どに言わん「わが父に祝せられたる者よ、来りて世の創より汝等のために備えられたる国をつげ。なんぢら我が飢えしときに食わせ、渇きしときに飲ませ、旅人なりし時に宿らせ、裸なりしときに衣せ、病みしときに訪い、獄に在りしときに来りたればなり」爰に正しき者ら答えて言わん「主よ、何時なんぢの飢えしを見て食わせ、渇きしを見て飲ませし。何時なんぢの旅人なりしを見て宿らせ、裸なりしを見て衣せし。何時なんぢの病み、また獄に在りしを見て、汝にいたりし」王こたえて言わん「まことに汝らに告ぐ、わが兄弟なる此等のいと小き者の一人になしたるは、即ち我に為したるなり」斯てまた左におる者どもに言わん「のろわれたる者よ、我を離れて悪魔とその使らとのために備えられたる永遠の火に入れ。なんぢら我が飢えしときに食わせず、渇きしときに飲ませず、旅人なりしときに宿らせず、裸なりしときに衣せず、病みまた獄に在りしときに訪わざればなり」爰に彼らも答えて言わん「主よ、いつ汝の飢え、或は渇き、或は旅人、あるいは獄に在りしを見て事えざりし」ここに王こたえて言わん「誠になんぢらに告ぐ、此等のいと小きものの一人に為さざりしは、即ち我になさざりしなり」と。斯てこれらの者は去りて永遠の刑罰にいり、正しき者は永遠の生命に入らん」（マタイ伝　二十五章三十一節－四十六節）

聖典の中には右手が正義のしるしであり、聖約をなす時に使われたという事を示す数多くの言葉がある。

救主が大祭司、学者、長老の前に連れ出された時、大祭司は救主イエスにこう聞いた。「われ汝に命ず、活ける神に誓って我に告げよ。汝はキリスト、神の子なるか」と。この質問に対しイエスは「なんじの言える如し。かつ我なんじらに告ぐ、今より後なんじら人の子の全能者の右に坐し、天の雲に乗りて来るを見ん」と答えたもうた。（マタイ伝二十六章六十三節－六十四節）

ステパノは殺される前、天を仰ぎ神の栄光を見、且つ神の右に坐すイエスを見たと聖書に誌されている。（使徒行伝七章五十五節）

右手または右側は「吉」で、左手左側は「不吉」だと云われている。「吉」は何か好ましいものを暗示し、左手は何か好ましからざる不幸を意味する。教会に於て右手で聖餐に与り、右手で油を注ぐという事は、聖典の示すところの習慣に従えば神の命令により認められ、また常に認められていたという設立された教会の慣習である。

ジョセフ、金版を受取る

# 表紙の説明

## 大いなる愛の奉仕

数ヶ月前、誰も何処から来たか知らないが一人ぼっちの水夫がニュージーランドのツヒカカラメアに到着した時、彼はその放浪の日が終った事をいくらか自覚した。

すべての事実が不明であったか、何か次のようなことが起った。

建物が建ち並んでいる広大な開けた土地が疲れ果てた彼の目にうつった。

それらの建物の中には近代的な大学の校舎があった。

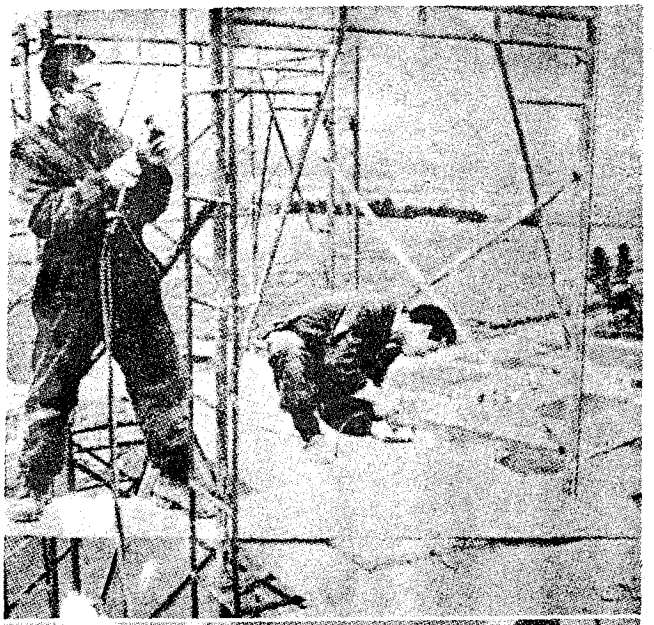
更に岡の上に延びて行って其処にも何かある。それは何であろうか、偉大なる教会であろうか？其処には偉大なる建物があり塔の尖端を空につきさしている。恐らくその光景は彼をしていささかそのえりをたださせたであろう。

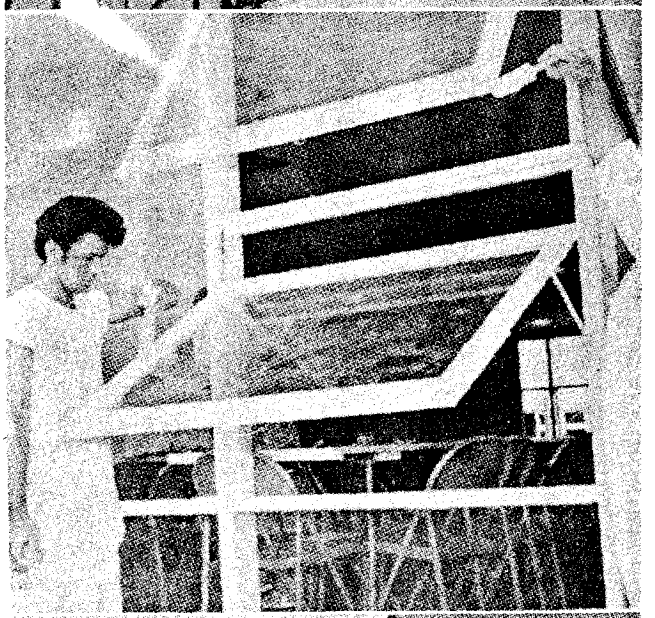
ぶらぶら歩いている内に彼は一組のマオリの労働者たちに逢った。その大部分が少年たちであった。暫くして彼が疲れ切って足がくたくたになった時、労働者たちは彼を彼等の宿所に伴い食べさせて宿まらせた。

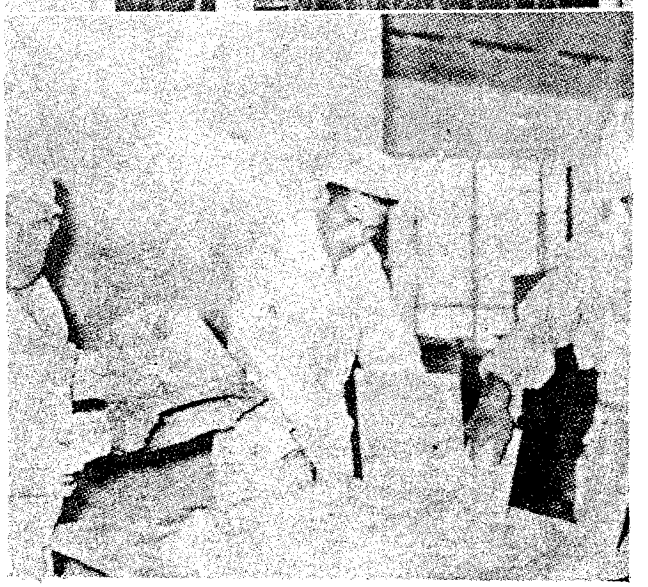
その行われている事業が何であるかをおぼろげに理解するにも数時間を要した。けれども翌日、容易に去り難かった彼はその作業員たちの組に加入した。その組員たちは非常に変っていた。賃金を受取らず只部屋とわずかな週の手当で宿泊させてもらうだけである。更に風変りなことは全建設事業が同一の条件で働らく二百名余りの作業員と技師たちによってなされていた。これ等の人たちは彼等自身を〃モルモン〃と称した。

若い人たち、妻子を持った成人たち、マオリ人もアメリカ人も共になって彼等は約五百人の固く結合された共同社会を形成していた。

すべての者が大学と神殿の建設に彼等の時間を捧げていた。更に彼が学び知ったことと







このような人々が南大平洋を通じて同様のことをしている。学校及び教会を建て無料で自由に彼等の哲学を教えている。

確かに彼は何処かで変った人々モルモン教徒に就て聞いた。果して彼等は変っているのだろうか？今やこれ等すべては彼の周囲に展開されつゝあるのであった。そして彼等はすべてを無報酬でなしつゝある。そして彼が今迄、この人々に就て聞いた如何に大げさな話も到底及びもつかないように感ぜられた。

彼等は幸福な人々であり、好んで歌を歌い、常にほほ笑みをたたえ、慈悲深く勤勉で、敬虔の念深く同時にかいぎやく性に富んでいる。否、彼は其処には内面の動機があるに相違ないと決定した。人々は単にそのようなことをなすことは出来ない。彼は周りの者にたづねた。何故？真実の答えは？かくされたものは？

「それは主のお召しだ」一人のマオリの少年がむぞうさに言った。

「我々は神の御業に仕えているのだ」

他の者が彼に告げた。

煙に巻かれた彼は他の若者に近づいた。

「貴方はどの位、ここに居るのかね？」と彼は問ねた。

「おゝ　五年、或は六年かも知れない。私はわからない」

「五年か六年そして貴方はどの位たったかおかまいないのかね？」その若者はほほえんで肩をすくめた。

「どの位、貴方はまだここで働らくのかね？」

「仕事が終るまで」

恐らく水夫はひげのこい彼のあごをたゝいて、さて今度はとたづねたであろう。

「貴方はこうして何が得られるのかね？」

「おゝ、我々は職業を習っているのだよ。技術を身につけているのだ、そうすると将来、よい職業に就けるのだよ。けれどもそれが、我々が此処に居る主なる目的ではない、我々は召されたのだ」

「なるほどね」旅人は沈思した。彼は顔を上げると大げさなゼスチュアをして

「そして貴方はこれがすべて完成した時、何処に行くのかね？御両親の許に帰るのかね？」

「一寸の間ね。それから私は恐らく他の使命（神の御業）に向うでしょう。私は人々の間に入って私の知っていることを告げたいのです」

若人は彼の目を上げて神殿の尖塔に向けた。

水夫は彼の頭を上下に動かしてうなづいた。

ここには何か全体的なふんいきの中によい感じがある。けれども何と言っても彼は相当な賃金をかせがねばならなかった。彼はその生涯の大きな部分を思いきることは出来なかった。彼は静かに町に向ってぶらぶらと歩いて行った。恐らく再び海に帰る時間であったのであろう。

誰もしばらくの間彼の姿を見た者はなかった。浮標を離れたボートのように、かじもなく外に向ってただ流れて行ったのであった。それから或日仕事に従事していた作業者たちは同様の人物を見た。彼は真直ぐ歩いて来た。彼の目は輝いていた。

「私は貴方と働らきたいです。私は戻って来ました」

彼は静かに言った。

数ヶ月後彼は一団の旅行者の間に立って、彼がこの変った人々に関して学んだ驚歎すべき或事に就てまた学校や教会や近代的な大学校に就て、偉大なる神殿に就て、またこの大平洋に於けるばく大な全事業企画に就て、末日聖徒イエス・キリスト教会に就て、人類の努力と犠牲のすべての歴史を生み出したところの教義に就て、或事を説明していた。

彼は今や作業者であると同時にその仕事場の最もよき案内者の一人となった。彼は最近バプテスマを受けたのであった。彼のいかりは遂に福音の固い岩の上に置かれたのであった。

若き末日聖徒の為の

# モルモン経物語

エマ・マー・ピーターソン著＊渡部正雄訳

## 第三十四章　逃走

（モーサヤ書、第二十二章）

リムハイとアンモンは彼等の民を束縛から救出そうと計画し始めました。王は町に住むすべての人を集会に呼んでその事に就て討論させました。彼はすべての人に若し彼等が逃走を欲するなら逃走の計画を出すように云いました。

誰もがレーマン人に気づかれないように彼等の家族や家畜を伴って急いで此の地を逃去り荒野に行くと云う同一の考えで他の案はありませんでした。彼等は、以前には此の事が出来なかったのです。何故なら誰も彼等をゼラヘムラの地に導く者がなかったからであります。けれども今はアンモンが彼等にその道を示すでありましょう。彼等はもうレーマン人達と戦うことを欲しませんでした。何故ならばあまりにも多くの人々が彼等の戦争に於て戦死し少数の者だけが生き残ったからであります。

前に王に戦を避けるようにすすめた軍隊の隊長のギデオンは立上って「王よ、今日まで私共が同胞であるレーマン人と争ったとき、王はたびたび私の言葉を用いたもうた。王よ、もしあなたが私を役に立たない家来と見ず、またこれまで多少なりとも私の言葉を採用してその言葉が役に立っていたならば、このたびも私の言葉に耳を傾けていただきたい。私はかならず王のしもべとなって働き、この民を奴隷の境涯から救い出すでしょう」と云いました。

王は彼に語るように云いますとギデオンは「ごらんなさい、この市の後にある城壁を通る裏道がある。あそこにいるレーマン人の番兵は夜酒に酔っているから、わが民にふれを廻して家畜の群を集め夜の中にこれを荒野へ追い立てて行かせよう。さて私は王の命令に従い、最后の貢である葡萄酒をレーマン人に納める。するとかれらはこれを飲んで必ず酔うから、眠っている間に私たちは陣営の左にある間道を通って外へ出る。こうして私たちは、女子供と家畜の群をつれて一しょに荒野へ立ちのき、シャイロムの地を廻って旅路を進むのである」と云いました。

王はギデオンの計画に同意し彼の民に或夜逃走の準備をするよう命令しました。ギデオンは民がレーマン人の為に強制されて造った酒を持って門番の処へ持って行きました。番人達は酒を多く呑んで酔いつぶれ深い眠りに陥りました。

そこで民はアンモンを指導者として門を通過し眠れる番人の横を通り過ぎました。彼等は間道を見出しゼラヘムラの地に向って出発しました。彼等は旅行中不足しないだけの食糧を持ちまた出来るだけ多くの他の財産を持って行きました。

レーマン人達がリムハイの民が逃走したのを知った時軍隊を派遣して追跡させました。彼等は二日間リムハイの民を追いかけましたがその後あきらめてしまいました。

多くの月日を旅した後アンモンはリムハイとその民をゼラヘムラ市に連れて来ました。そこでモーサヤ王は大変な喜びを以て彼等を迎入れました。

そこで彼等はリムハイの父悪王ノアから逃れてアルマに従った彼等の友人にも逢いました。前に述べたように一時、レーマン人の束縛の下にあった民をアルマは安全にゼラヘムラの地に導いたのでした。

彼等が其処に到着して間もなくリムハイはモーサヤに彼の民の歴

史を告げる版及び乾いた骨の谷間より取って来た二十四枚の金版を与えました。

或日、モーサヤはその民を呼集めてリムハイの民の事に就て、ゼニフが彼等を荒野に連れ出した時からゼラヘムラに帰る迄の歴史を読んで聞かせました。彼はまたアルマがノアから逃れてからの事情に就ても読み聞かせました。

アルマは語るように云われたので民に向って主なる神さまの援けによってのみ彼等がよく逃れる事が出来たことを記憶するように、また彼等は常に神に仕えるよう心がけねばならぬと語りました。

リムハイと彼の民は今もなおバプテスマを受け度いと希望しましたのでアルマは彼等を水辺に伴って皆にバプテスマを施しました。

アルマはそこでゼラヘムラの全地域にわたって教会の支部を設立し神権者を指名して各支部を司どらせました。

あまりたくさんの人が教会に加入して来たのでアルマは多くの支部や集会を組織し、教師、祭司を任命して集会を開く責任者とせねばなりませんでした。

アルマはその仕事を指導し丁度彼が荒野のモルモンの泉でなしたと同様に多くのバプテスマを施しました。

## 第三十五章　若いアルマ

（モーサヤ書。第二十七章）

アルマとモーサヤ王はその民にお互に愛し合い平和的に住むように教えました。今やゼラヘムラ市には四つの団体がありました。ゼラヘムラ市を建設した人々、最初のモーサヤ王に従ったニーフアイ人達、アルマが連れて来た人達及びリムハイ王と共に来た人達であります。

多くの者がアルマやモーサヤの希望通りにしましたが或る人々は拒みました。彼等は多くの罪を犯し主なる神さまとその僕達を拒絶しました。

同じくアルマと呼ぶアルマの息子もその一人でした。彼はこれ等悪人共の頭目でありました。彼の仲間のうち四人はモーサヤ王の息子達でした。彼等はアルマと共に方々歩き廻って人々に彼等の父親たちの忠告に従わないで若し好むなら悪の生活をするように説得しました。

若いアルマは大変雄辯家でありました。彼は民にへつらい彼の父親及び王にとって大きな悲しみの種となりました。彼のうそを信ずる或一部の民は道にはずれてしまいました。

アルマは主なる神さまにこれ等若い人々の心を柔らげ彼等が福音に帰依してその大いなる力を悪でなく善に使うように頼みました。

或日若いアルマとモーサヤの四人の息子達が教会を打こわしに出かけようとしていると天より使者が降って輝く雲の中に彼等に現われました。彼が語る時、その声は雷のように若い人達が立っている土地を震いました。

アルマとその仲間は天使が来た時あまりの恐れに地に倒れ伏してしまいました。天使は、「アルマよ、起き立て、何故神の教会を迫害するか？」と云いました。

天使は更に言葉をつゞけて「見よ、主はすでにその聖徒らの祈りも神の僕である汝の父アルマの祈りも聞きとどけたもうた。汝の父は汝に真理を知らせようとして堅い信仰をもって汝のために祈った。それであるから、神の僕たちの祈りがそれぞれの信仰に応じて聞きとどけられるよう、われは神の権能と威力とを汝に認めさせるために来たのである。」と云いました。

彼が語っている間中、地は震い続けました。天使はアルマに呼びかけ「汝は神の能力を疑うことができるか。見よ、わが声は地をふるい動かすではないか。また汝の前に立っているのが見えないか。われは神からつかわされた者である」と云いました。

彼はアルマに教会に対し戦うことを止めよと命じて去りました。

アルマとモーサヤの息子達は天使の訪問に圧倒されて再び地に倒れ伏しました。彼等はその見聞きした事にひどく驚いたのであります。

彼は天使の力に打負かされて語る事も出来ず、歩く事も、立上る事も、手をのばす事さえ出来ない程弱り果てました。彼の友達はその状態を見て用心深く彼を起し彼の父の許に連れて行って起った事柄をその父に語りました。

父は神が彼の息子の為の彼の祈りを聞届けられた事を知って大変喜びました。彼は捧げられた祈りの結果を町の人々に知らせようと呼集めました。そこで彼は神権を持つ人々に彼の息子が語る事が出来、もう一度元気によくなるよう

彼と共に断食して祈ってくれるように頼みました。

彼等は二日二晩断食して祈りますとアルマの息子に力が蹠って来ました。彼は再び語れるようになり周りの人々を眺めて彼は語り始めました。彼は主なる神さまが彼が教会と戦うことにより如何に大きな罪を犯したかを示されました と告げました。彼は曽てイエスはキリストである事を否定しましたが今や主なる神さまは神の子であり世に来たり給う事を知っていると云いました。

彼は完全に変りました。彼はもう教会に叛かず却て建設しようとつとめました。モーサヤ王の息子達も天使の訪問によって改宗致しました。彼等は若いアルマと共に彼等が曽て歩いた地方をめぐり、曽てうそをついて人々を悪くした損害を取戻そうとつとめました。彼等は以前に犯した自分達の罪を認め、その改宗に就て語り告げました。

聖徒達は此の改宗を喜びました。けれども多くの悪人たちは少年達の云うことを聞こうとせず却て、法により禁じられているにも拘わらず彼等を迫害しようとしました。それに屈せず若い人々は聞こうとする人々に対し彼等の福音を宣べ伝えました。

## 才三十六章

### モーサヤの息子達

（モーサヤ書、才二十八章）

アルマと共に改宗したモーサヤの四人の息子達は今や教会に忠実な宣教師となりました。彼等は何処に行っても福音を説きました。

或日彼等はその父、王の前に行ってレーマン人の処に伝道に行かせて下さいと頼みました。彼等は単に此の好戦的な人々に福音をもたらそうと望んだばかりでなく彼等は若しレーマン人達が改宗したら彼等の心から憎しみが去って彼等はニーフアイ人に対する挑戦を中止するであろうと信じたからであります。

モーサヤはどうしてよいかわかりませんでした。彼は年老いてきて間もなく国の政治を彼の息子の一人に譲り渡さなければならないという事を知っていました。彼の息子達が家に居らない限りこの事は出来ません。同時に彼はまたレーマン人達が如何にざんにんであるかを知っていましたので彼等の生命をきづかいました。

彼の息子達の誰もが彼の代りに王となろうと望みませんでした。彼等は寧ろレーマン人の処に伝道に行きたいと云いました。王は尚もためらいましたが少年達は依然として頼みつゞけました。

遂に彼はこの事をお祈りに頼る事に決めました。彼の祈りに答えて主なる神さまは「彼等を行かせなさい。多くの者が彼等の言葉を聞いて永遠の生命を得るであろう。そして私はお前の息子達にレーマン人の手より救出すであろう」と云われました。

此の主なる神さまよりのお守りの保証を以てモーサヤは彼の息子達に伝道に出かけてもよいと告げました。

少年達は嬉しげに出発の準備を致しました。モーサヤは始め彼の王国を如何にしたらよいかわかりませんでした。彼は民に布令を出して彼が死んだ後彼等が誰に王になってもらうことを望んでいるかと尋ねました。彼等は彼の息子のアロンを望むと云いました。けれどもアロンはゼラヘムラの地の王となるよりもレーマン人に対するへりくだった宣教師となる事を熱望しました。モーサヤ王はどうしたらよいかと思案に暮れている時、リムハイ王が彼の処に持って来た二十四枚の金版の事を思出しました。彼は今それを訳して何が書かれてあるか見ようと決心しました。

彼の解訳器を使って彼はその金版に書かれてある昔の文字を学びました。それはジェレドの兄弟と彼がアメリカに導いたその民と又その民の戦争の事に就て語られてありました。またそれにはコリアントメルを除いてすべての人が殺されてしまった大戦争に就て書かれてありました。そのコリアントメルは最後にゼラヘムラ市に辿り着いてそこで死にました。

リムハイの民によって発見されたひからびた骨は此の最後の大戦争に於て殺されたジェレド人達の骨でした。彼等が発見し、そして今此の滅亡の物語りを述べている此の金版はジェレド人の最後の予言者イテルによって閉じられたものでありました。

モーサヤがその民にその記録の訳したのを聞かせると彼等は偉大なるジェレドの民の滅亡を心からいたみました。翻訳を完成して後モーサヤはその金版と其他彼が所有しているすべての記録を若いア

# 系図のページ

## ホーム・テイーチング（四）

……再訪問を継続する……

最初の訪問の後適当な期間を置いて、これ等種々の記録活動を指導されている人たちが自分自身で記録を保って行ける迄更に訪問を継続すべきである。賢明な継続訪問をしない為に折角燃え上がった興味を枯死させてしまうことは誠に価値がない。再訪問は出来るだけの援助を与えたいと言うホーム・テイーチャーの純粋な希望を示すことになるであろう。

すべての訪問に於て詳細な報告を作成して次回の訪問に備えるように決して放置しないようにすべきである。若し訪問が失敗したように思われるなら、ホーム・テイーチャーは彼自身で訪問した人の接近法を研究し、その反響を調べて、その観察して気づいたものを賢明に適用して行くべきである。

……家庭　ワーク。ナイト：

ワード部の委員たちは彼等のホーム・テイーチング計画に関連して家庭　ワーク・ナイトを持つように奨励される。これら　ワーク・ナイトは効果あるホーム・テイーチングであることがわかった。これによって興味を生じた人々に記録保持の基礎及び豫備的探求が教えられる。この方法によって系図の仕事の主題に接近することは、ホーム・テイーチャーをして最少の時間を以って、通常のホーム・テイーチングの方法により完成し得るものより遥かに多くの人々を好ましい状態に到達させることが出来る。

次の提案はホーム・テイーチングの際に、実施して成功をおさめた家庭　ワーク・ナイトによりなされるもので、活動的なホーム・テイーチャーに提供されたものである。

一、貴方の計画したプログラムを許可を得る為に貴方の監督に提出し、実施する際彼の支持を受けるようにする。

二、貴方のワード部の地図を用意し、会員の住所を挙げ番地を記入する。

三、ワード部を訪問区域に分割する（あまり大きくしない）

四、各訪問区域に二名のホーム・テイーチャーを任命して区域内の各家庭を見廻らせ、これにより区域内に住むワード部会員家族との間を親密ならしめる。

五、訪問したテイーチャーか、その家庭から好ましい反応を得たら、ワーク・ナイトの根底としてもよい。但しそのような予約は当該家族と充分にとらねばならぬ、家庭　ワーク・ナイトに使われる家庭に住んでいる家族たちが計画された指示と系図上の手続きの与えられるこれ等の集会にその隣人たちを招待することは許可されている。

六、机や椅子や系図及びファミリグループ・シート等は集会に

☆☆☆

ベネット長老

ピーターソン長老

スミス長老

集った人たちの為に用意されていなければならない。

実際の参加者（ワーク・ナイトを開いている家庭の当事者）はホームティーチャーの指導と援助により、彼等自身の記録を作成すべきである。

八、最初の家庭　ワーク・ナイトを成功させるように大きな努力が払われねばならない。若しもこの最初の会が系統的に他の訪問によって続けられるなら、間もなく参加者は四年程で探求を続ける為自身の記録に就て充分に学んだと言うことが判明するであろう。勿論時に応じ系図委員の援助・鼓舞が必要である。

九、ワーク・ナイトの各執務時間は要点をついた簡潔なもので常に指示を与えるものでなければならない。

十、ワーク・ナイトに参加する人たちの量は集会の行われているその家庭内で充分に世話され得る範囲を越えるべきではない。その為或場合にはワーク・ナイト・プログラムに参加した各人に個人的援助者を追加する必要が生ずる。これ等の人々と彼等自身の家庭に於ける予約が提案される（すすめられる）そこで追加の詳細は援助と勧告が及ぼされる。

……ガイド……

ホーム・ティーチャーを援ける

# 系図協会のマイクロフィルム活動

教会は進歩的であり常に前途を目ざして進む。これが今日、教会が前世界を通じて驚異的発展を遂げている理由の一つである。

その中でも最も近代的躍進を遂げているのは系図協会の活動である。

為、またすべて先祖の為に成功的な探求を願う者の為に系図探求のガイドが準備され今日一冊二弗後払で購入出来る。それは系図協会で得られる（本部にもある）

この三三八頁の書物は現在探求可能の莫大な記録を賢明に使うことにより如何に先祖の問題が解決されるかを模範を以て示しまた援助的指示で充たされている。各国の探求の技術が説明されている。証明されたものと慣習或は推定されたものとの間の関係をはっきりとさせている。

書物の幾つかの附録に援けとなる表、伝記むづかしい書き方の見本、外国系図専問語、及びヨーロッパ各国の記録出所の記述等がある。

ろう。協会は末日聖徒　たちの為に神殿の仕事の準備として、彼等の死者の記録を探し出す、劃期的手段を備えることによって時代に遅れをとらないようにしている。

アメリカ或はヨーロッパからの

教会の会員で系図協会の施設により、その先祖を遡ることに相当の成功をおさめない者は殆ど居ない。

協会の記録は実際に於てすべての白色人種からマイクロフィルム或は書物の形により得られたもので、今日ソルト・レーク市に於て探求の為に供せられているのである。

写真左から、マイヤーズ、ランド、カーカム、クリスチャンセン

過去に於ては多くの者が彼等自身の家族の記録を探求する為にヨーロッパを訪問せねばならなかったが、今日では彼等はたゞ教会の系図協会の図書館及び記録庫に折衝すればよいだけである。そこで彼等は外国に保存されている彼等の家族の氏名の記された本物の記録を写真に撮って見る事が出来、これを学びまた写しとることが出来るのである。近代文明の利器がそれを援け可能ならしめたのである。

系図協会は一九三八年にマイクロフィルムの使用を開始した。その時よりマイクロフィルムの仕事が協会発展の大きな実績となったのである。今日に於て協会は、二億一千二十八万一千二百三十八頁の記録のリーディングマシンにかけられるフィルムを持っている。写真技師たちはスエーデン及びアイルランド、スコットランド、ウエールス、アイルオヴマンを含む英国諸島、デンマーク、フインランド、オランダ、ドイツ、メキシコ、ノルウエー、スイス、アイスランド、カナダ、フランス、イタリー、其他の国々を訪問している。

之に加えるに合衆国内に於ても多くの記録のマイクロフイルムが作成されている。即ちコネチカット、デラウエア、メリーランド、ニューハムプシヤー、北カロライナ、ロードアイランド、テネシー、ヴアーモンド、ヴアジニヤに於て完成しフロリダ、ジョージヤ、ハワイ、ケンタッキー、メイン、ニュージャーシー、ニューヨーク、オハイオ、ペンシルヴエニヤ、南カロライナ及びユタに於て未だ進行中である。

協会が自身の写真技師を派遣していない処に於ては他の機関からマイクロフイルムを購入し実際に於て全米各州より集められているのである。一八三〇年度一八四〇年度一八五〇年度一八六〇年度の合衆国の国勢調査の記録は協会に保持され大体に於て全州に亘って完成されている。一八七〇年度の国勢調査の一部も図書館にある。これ等すべてのフイルムに加えて数千万の他の書物が見られる。

探求の為に最も効果ある部門は記録庫である。其処では今日約三百万のファミリ・グループ・シートが備えられ、見ることが可能である。この部門で毎日一千枚づつ増加している。そして三千五百枚のカードが毎日ファイルする為に索引局に送られている。記録庫の公務施設も増大して単にこの一部門内に四十八人の人が働き毎日四百五十の綴込みが顧客の閲覧に供せられている。

系図協会は聖徒たちの為に探求活動に於て顕著な奉仕を準備している。現在約六千近くの積極的な有償探求（代金を払って依頼された探求）が協会によって取扱われている。

二十七名の探求家が、デンマーク、ノルウエー、スエーデン、オランダ、イングランド、ウエールス、スコットランド、アイルランド、ドイツ、スイス、フインランド、合衆国、アイスランド、カナダ、及びフランスで堅実に探求に従事している。探求家の間では次のような言語が語られている。スエーデン語、ノルウエー語、デンマーク語、アイスランド語、オランダ語、ドイツ語、フランス語、イタリー語、スペイン語、及び中世並に古代のラテン語等である。

ステーキ部及びワード部の系図委員にワード部内の会員たちが彼等（会員たち）の探求を遂行し、彼等の系図の記録を備え、彼等の神殿の仕事を始めるのを如何に援けたらよいか教える為に教会の各ステーキ部に年一回系図の集会が開かれる。

ワード部内に於けるクラスの勉

学の為にテキストブックが備えられた。ブリガム・ヤング大学で講習がほどこされ或系図の指示はラジオによって広く聴者に与えられている。

末日聖徒イエス・キリスト教会の系図協会の現在の役員は次の通りである。

ジョセフ・フイルデイング・スミス　会長及出納官
マーク・E・ピータースン　副会長
アーチボールド・F・ベネット　総書記
L・ガレット・マイヤーズ　事務局員
A・ウイリヤム・ランド　事務局員
ジエームス・M・カーカム　事務局員
エルレイ・L・クリスチヤンスン　事務局員

＊＊＊＊＊＊＊＊ 質　問 ＊＊＊＊＊＊＊＊

群馬支部系図委員会才一副会長
福沢昌子姉妹

質、父母の一方が養子となったのでなく、両方とも養子となって、夫婦となった場合の系図は、血縁関係を重視すべきか、又は養子先の先祖を調べたら良いか、それとも両方に渡るべきか。

答、どちらも探求するのが望ましい。たゞどちらに結び固められるかは本人の希望と系図協会の判断による。

質、男性にはM、女性にはFの記号をつける場所と、直系尊属の名前につける×印の位置の関係はどうなるか。

答、M又はFと姓の頭文字との間

質、父親が養子である場合、系図上の姓名の書き方

答、聖徒の道、七月号に記載済みのファミリ・グループ・シートの場合と同様。

質、全ての姓は結婚前のものを書けばよいか、

答、家族代表者の場合を除く

質、〃家族の記録〃の〃神殿の儀式の資料〃には何も書かないということになって居ると思うが、子供の欄のバプテスマは神殿の儀式以外として扱い、エンダウメントと結び固めの項だけを空欄にしておけばよいか、

答、夫、妻、子供の欄を通じ既にバプテスマを受けている者は記入する。八才未満死亡の場合はバプテスマとエンダウメントの欄にChildと記入する。

質、〃家族の記録〃を父、祖父というように、何代ものを分けて書いた場合、どこで区別したらよいか、例えば〃父の家族〃〃祖父の家族〃と言うようなことはどの辺に書いておけばよいか。

答、これを見分ける為に系図を添えて出すのであるから〃家族の記録〃の上に別に何等記号をつけない。

質、ホーム・テイーチングについては月に何度とか云うような特別なきまりは〃聖徒の道、五月号のように二ケ月に一回程度のものでよいか。

答、少くとも月に一回が望ましく二ケ月に一回と言うのは家庭ワーク・ナイトのことである。

質、ホーム・テイーチングを実施された支部があるか。

答、東京北支部の系図委員会会長福田正勝兄弟は委員の山田五郎兄弟とで（山田兄弟は用事があった為行けなかった）支部長の大塚兄弟の宅を訪問、家庭ワーク・ナイトをして大塚兄弟の七枚のファミリ・グループ・シートを完成した。
また福田正勝兄弟は弟の清治兄弟と共に丹羽兄弟の宅を訪問系図を三十代位前迄遡った。

質、ホーム・テイーチャーの準備教育と云うようなことに就ては特別の指示があるか。

答、本部系図書記ワルゼン姉妹が特に日本人の為に書かれた系図探求を訳して本月中には出す予定、これをテキストに使って準備教育を施され度い。なお東京で行っている月例系図合同集会にこのテキストを使用してレッスンの時間を設けている。

以上

岡町支部系図委員会会長
阪本　弘兄弟

質、山田一郎は十四才の時伊東家

へ養子に来て伊東家より岡邦子さんを妻としました。この場合山田一郎氏の系図調べは山田、伊東両家と三方調べるわけですか。

答、山田、伊東両家とも調べることが望ましい、どちらに結び固めするかは本人の希望と系図協会の許可による。三方とは岡家を指すと思われるが邦子さんが信者なら邦子さんが岡家の家族代表者となり岡家の神殿の儀式は挙げられるが邦子さんが信者でなく又その親戚に信者が居ない時は家族代表者もなく夫又は妻は単に記録提出者となりその記録は将来に備えて神殿の中に保存されるのみで儀式は挙げられない。

質、戸籍に立派な名前があるのに、成年になってから勝手に名前を変えその名前でバプテスマを受けた場合、記録のつけ方はどうすればよいか。現在無届であらゆる方面にその名を用いている。

答、系図上の記録はすべて法律的に効力ある記録。戸籍による、だから戸籍上の名前にされ度い。バプテスマを受けなおす必要はない。

質、数回結婚した時「生き別れ」「死に別れ」を問わず相手の家系に就て系図調べをする必要があるか。

答、することが望ましいが実際にその相手との間に出来た子供が或は相手の親戚の者が信者になる道は記録を提出しても才一問の場合と同様にその記録は神殿内に保存されるのみで神殿の儀式は行われない。これには例外がある、熱心な求道者で止むを得ざる事情（夫或は親が許可しないような場合）によりバプテスマをまだ受けてない場合、この人が家族代表者となり従って神殿の儀式を挙げられる。

## 才三回

## 月例地方部

## 合同系図委員会

今回は評議員支部長会員等も多数参加して系図に対する会員一般の関心が漸次向上していることが証明された。出席人員も非常に多かった。各支部委員会長の報告に次いでワルゼン姉妹が系図の重要性と支部委員会書記の報告提出を強調。続いて次のような質疑応答があった。

問、庶子を嫡子の中に入れるか

答、それぞれ別個のファミリ・グループ・シートを作成する。

問、漢字の姓名に読み方が二通りあって何れが正しい読み名であったか判明しない時。

答、幾分でも正しい読み方と思われる方を書いて他の読み方をかっこして附記する。

問、骨を二ケ処に分納してある場合、埋葬地及び埋葬年月日如何（墓地への納骨が埋葬と見做される時）

注（火葬の際、火葬か納骨か何れを埋葬と見做すかは目下問合せ中）

答、確答出来ないから系図協会に問合せる。

なお東京中央支部、北支部、横浜支部に於てはテキスト「家督権の祝福」を用いて日曜学校で既に系図のクラスが開かれて居ますが他支部に於てもなるべく実施されるよう希望します。

伝道部系図委員会会長
渡部正雄

## 系図協会

## 総書記の回答文

兼ねてアーチボールド・F・ベネット系図協会総書記に問合せ中であった左の三つの質問に対する回答があったから左記する。

質、明治五年以前の陰歴の月日は大陽歴の月日に変更するか。

答、陰歴の月日でよい。

質、火葬の場合埋葬月日は火葬の日附となるか、墓地に納骨した日附となるか。

答、埋葬の欄に火葬（cremation）として火葬の日附を記入する。

質、姓名の読方が二通り又は稀にそれ以上あって何れの読方が正しいか不明な時。

答、或は（or）として全部の読方を記入する。例

Masaji Watabe or Shoji Watanabe.

# 日本伝道部の回顧

高木　富五郎

（その二）

これよりさき、一九〇一年八月十二日にエンプレス・オブ・インデイア号がアメリカから横浜に到着した。同船からは末日聖徒イエス・キリスト教会のヒーバー・J・グラント使徒（後に才七代大管長）及びルイス・A・ケルチ（マース前伝道部長の叔父）ホラス・S・エンサイン（後に才二代日本伝道部長）アルマ・O・テイラー（後に才三代日本伝道部長）の三長老が下船し、日本に初めて伝道事業が開拓されたのでした。

しかし四長老の来朝は一部のものに反対され、邦字英字の各新聞には事実無限の記事が掲載されたので政府もまた当教会の日本布教を容易に許可しませんでした。そこで四長老は九月一日の午前に横浜郊外の一つの森に入ってさわやかに讃美歌を歌い、静かにお祈りを捧げ、聖霊に導かれるまま日本伝道に着手する決意を表明しました。十月二十日には伝道の中心を東京に移し四谷霞ヶ岡町に本部を設け、一九〇二年二月八日には二人の日本人が最初のバプテスマを受けました。

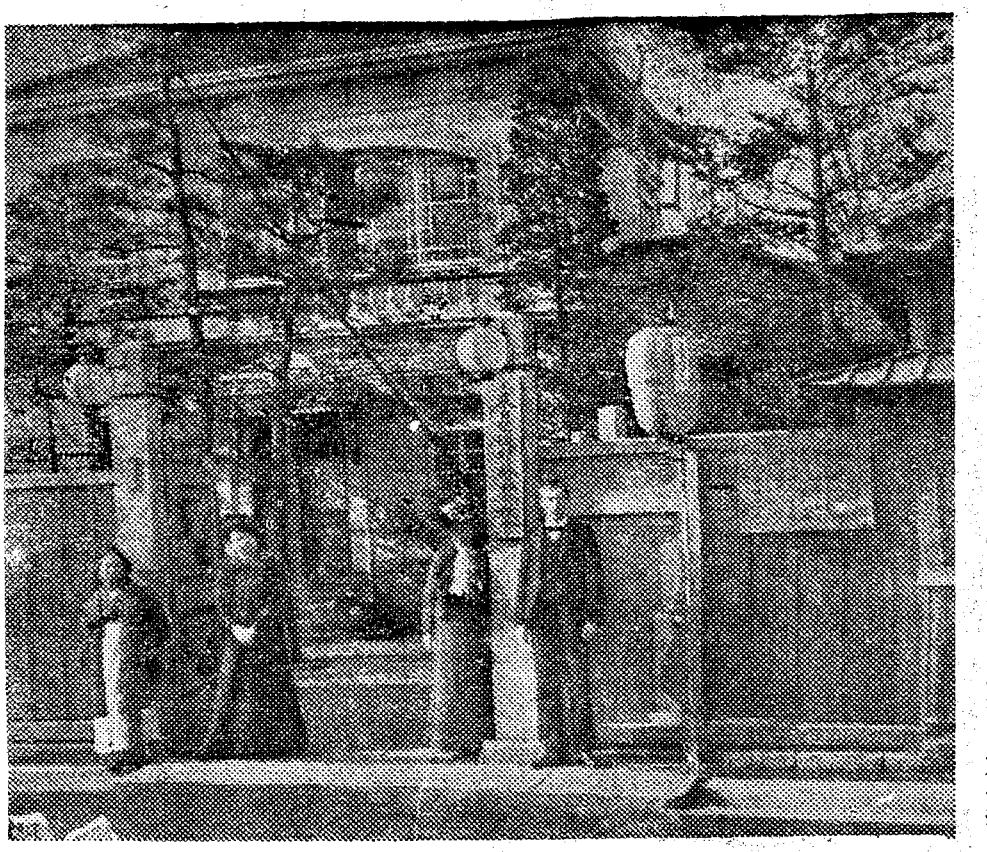
一九〇二年四月の大会に帰米していたグラント伝道部長は七月十七日にはアガスタ夫人とメリー嬢及びエンサイン夫人とジョセフ・F・フェザストン長老夫妻と、イー・L・ジャヴイス、ジョン・W・ストケル、サンドフオード・W・ヘッジス、フレデリック・A・ケインの各長老を同伴して日本に着きました。教会への迫害や攻撃はその後続きましたが、それには係りなく東京を始め千葉、長野新潟、宮城、山梨、岩手の諸県から北海道札幌まで福音伝道の手は拡げられていました。一九〇八年になってもまだ新聞が取上げて報道していました。その一例として「東京朝日新聞」一月六日付に「モルモン教には教会設立不許可」と題して、

今を去ること約十年前ごろ、北米合衆国よりモルモン教なるもの初めてわが国に渡来せし以来、該僧侶の本邦にて布教に従事するもの少なからず、現に北海道などにありては相当布教に努めつつあるを以て内務当局に対してしばしば教会設立の申請をなし来りたるが、既に彼等は一夫多妻を除外しおるも渡来後日浅く従って其の布教の結果が異端の影響を一般社会に及ぼしおるや甚だ十分ならざるを以て、当分の間教会設立は許可せざる由。と報道していたほど無理解の状態

「ニラホル」劇の出演者

にあります。

私はこの新聞報道のあった翌年から教会へ参りましたが、今度二回目の上京に際しても直ぐに教会へ行って見たところ、テイラー伝道部長やケイン長老は帰国されてエルバート・D・トーマス長老が四代目の伝道部長となっておられました。（トーマス長老は後に米国上院議員、終戦後は太平洋諸島の総督となった）。温厚な学者肌な方で其の説教は権威を持つ立派なものでした。日本で生れた長女に「千代子」と命名されるほど日本を愛されました。



伝道本部

五代目伝道部長はH・グラントアイビンス長老でした。彼は年若く、日本語も非常に上手で、また興味をもって仏教の研究もしていたので時々議論に花を咲かせたこともありました。アイビンス部長と私はよく「日れん」について論じましたが議論が高潮になると池上本門寺へ散歩に行って史蹟を探ねたりしたものです。

集まる者もやはり学生が多く、姉妹では西郷正菊、なべ島くま子と妹たち、奈知江栄子（現在長尾姓）森本琴枝（現在児玉姓）それに松本睦子姉妹の姉や妹たちも良い求道者でした。故島村抱月の遺児なる二人の娘たちも真面目に通っていました。兄弟たちでは佐藤森三郎、松本昌助、なべ島勇と弟堀切音文、奈良富士哉、それに白石源吉兄弟も後に札幌支部から東京へ移って来ました。求道者としては金子東一（市会議員）、滝沢良筈（弁護士）、義池義郎（前代議士）のそうそうたる連中が相互発達協会へ参集して居りました。

その頃は宣教師も少数だし、信者も少なので個人的には大変親密になり、一同提携して伝道の仕事を宣教師に手伝ったり、レクリエーションに興じたりしました。夜ともなれば宣教師を先頭に士官学校の前や、神楽坂の方面にまで街頭伝道に出かけました。また「日」を定めて、まだその頃は遠い郊外であった戸山ケ原へ散策したり、西大久保の「つつじ園」を探ねて「きぬかつぎ」をむさぼり食べながら「若き日」を興じ楽しんだものでした。そしていつでも薬王寺町の本部の門を出る時、私たちは振り返って見る「末日聖徒イエス・キリスト教会」の立看板に感慨のひとみをこらすのでした。

日曜学校では奈知江常姉妹が先生となって「モルモン経」の研究をしました。鈴木なみ姉妹は男子のような元気さで、そのクラスの先陣を承っておられたのが誠に印象的でした。

一九一四年のクリスマスには日曜学校のクラスが「モルモン経」の中から「コラホル」の話の劇をやりました。出演者は奈知江、なべ島両姉妹と奈良兄弟と私、野瀬

君と大久保さんと他の一人との三人の求道者とでしたが、服装は有り合せの敷布や毛布やカーテンを利用するという大へんな格好でした。それほど何の用意も出来ない時代であったことを想像していただきたい。（写真参照）

私たちは教義に関する深い理解を得られるような文献がなかったので奥深い知識を持つ術はなかったけれど、「末日聖徒イエス・キリスト教会」は予言者ジョセフ・スミスによって回復された唯一の教会であるという証しだけは日を経るにつれて強められていました。特に奈知江常姉妹の厳粛にして強烈な証しは私たち若い者の魂をゆさぶるほどな素晴しいもので、私たちは奈知江姉妹の信仰に導かれて教会へ集まっていたということを今にして強く感じ感謝せずには居れません。後年奈知江姉妹が死者のバプテスマの仕事に奉仕されるためにハワイへ行かれたときは、心の置きどころを失ったような寂しさに陥ったものでした。

アイビンス伝道部長が「末日聖徒讃美歌」の翻訳にかかって、その手伝をするように言われたので一九一四年の夏は毎日その事に没頭しました。その頃日本訳の讃美歌はありましたけれど訳文が長く適当でないというので改訳にかかったのです。例えば旧訳の讃美歌才四十三は改訳の才百十九で次のようになりました。

（旧訳）才四十三　我が天父

高くさかゆる
ところにて
すまいいましますし
我が父
またも御えに
かえり行き
御かおをおがむは
いつぞや
きよきいましの
住いには
かって
わが霊ありぎや
われのはじめて
成りし時
みそば近く
やをだてる

（才一節）

（改訳）　才百十九　我が父

高きに栄えて　すめる我が父
何時かえり行きて　御顔は拝む
高きにすみしぞ　我が霊かそ
御側にありしぞ　われ幼くて

（才一節）

アイビンス伝道部長

一九一五年六月、アイビンス伝道部長は任務を終えてアメリカへ帰ることになり、ジョセフ・H・ステンプソン長老が才六代目日本伝道部長として家族と共に来朝しました。私は途中で樺太へ行ったため中絶していますが随分長い間教会へ来て居りますけれど未だ会員ではありません。そこでアイビンス長老は帰国の前に私を会員たらしむべく、誠心を以て私の反省を求めました。もちろん私に異議のあるはずなく、唯私のわがままから今日に至っていたことでもあり、幸いにも七月には大学も卒業するので敬虔な気持でバプテスマを受けたい旨をアイビンス部長へ申請いたしました。

六月一日、朝のさわやかな空気を吸いながらアイビンス、ステンプソン新旧伝道部長をはじめ宣教師たち、兄弟姉妹たち、求道者たち二十人餘りで渋谷から玉電で新町まで、そこから二子多摩川の上流まで徒歩で、そして私は其所の清い流れで、兄弟姉妹たちの讃美歌をききながらアイビンス長老からバプテスマ、すぐ続いてステンプソン長老から按手礼を受け、ここにまことの教会を発見してから五年半にして聖徒の群の中へ加えられる幸福を授けられたのでした。

（ちなみに奈良兄弟はやはり六月の十五日に同じ多摩川の上流でバプテスマを受けられた。）

## 原稿募集

一、支部活動状況（四百字詰三枚位）
一、信仰と証詞（四百字詰二枚位）
一、写　真（集会、その他）
一、〆　切（毎月月末、厳守）
一、宛　先（伝道本部内編集部）

# ニュース

## MIA受賞式（西宮）

六月十四、五両日にわたって開かれた西宮支部大会のMIAは十四日夜、一九五七年度の表賞式を兼ねて行われた。受賞者は次の通りです。

安芸宏、中川宗幸、植村茂夫、筋田俊三、田口広道各兄弟、日高千鶴子姉妹、

ケーキとくだものを載きながら、今年度のテーマを初めに、詩の朗読があり、各国のMIAについて話し合い今年のMIAの綜合計画が発表された。出席者二十一名。

神権会　翌十五日午前九時から教義と聖約一〇一章三十六～三十八節をテーマとして開かれたが、「福音がキリストの愛に基いた働きである事に気ずいた」と謙遜に話しかけた筋田兄弟。「責任の内家族に対するそれは一番大きいものである」と話したパック地方部長の話等は特に印象ずけられた。

一般大会　次いで十時半から、岡町支部から特別に出席して載いたピアニスト、秋本いとえ姉妹の前奏で静かに始められ、各テーマに関係して、道場姉妹は「己を失うこと」、杉原兄弟は「キリストにおいて喜びに満される」について、大須賀姉妹は「永遠の生命」について話し、また栄養士である石塚姉妹は「世の塩」に関し、栄養学的に塩の重要性を説明した。最後に高橋支部長は生活にバランスを持つように話しかけた。

聖餐式「イエス・キリストの業」永井姉妹、「イエス・キリストの使命」植村兄弟のお話、有志による七十八番のコーラスに引続き、パック地方部長は、「友人に対する伝道」と「末日聖徒と結婚するように」との勧めをした。

MIA、系図委員会の組織決定　系図委員会の発足に伴い、

（会　　長）筋　田　兄弟
（才一副会長）中　川　兄弟
（才二副会長）植　村　兄弟
（教　　師）中　川　兄弟（求道者のクラス）道　場　姉妹（会員のクラス）

系図委員会

（会　　長）植　村　兄弟
（才一副会長）筋　田　兄弟
（才二副会長）永　井　姉妹
（書　　記）大須賀　姉妹

が夫々責任を与えられ按手聖任された。なお才一回系図委員会は六月二十九日に開かれ、「系図と神殿の教義的背景」と「系図調査のための準備」について学んだ。

街頭伝道、当地において初めての街頭伝道は六月二十一日阪急西宮駅前において行われ、ウッド長老その他の会員達の話を聞き、一週間後には新しい求道者が出席して居ました。

英語弁論会入賞、六月二十三日大阪毎日新聞社講堂において開かれた「大阪府下公私立高校英語弁論大会」で、当支部の日高千鶴子姉妹は一位の栄冠を獲得し、浪速短期大学学長より大カップ及び賞状を、英文毎日よりメダル及び賞状の他オックスフォードの英語の辞書を受けた。（田　口　広　道）

## 広島最近の活動

＊フアイヤーサイド（六日）

七月のフアイヤーサイドは、MIAの演劇部によってトルストイの「人は何によって生きるか」の朗読を聞きました。後から出席者の批評を聞いてみますと、「大変良かった」「良かった」「少し退屈だった」の三つの声があり、まず成功と云ったところでした。

＊送別会（八日）

三宮支部に転任されるブロック長老の送別会がMIA主催のもとに行われました。出席者二十数名。この日、神子島姉妹、村田姉妹の考えによる一つのゲームは大変気の利ったもので、花と文字で造ったレイはブロック長老にとって楽しく、思い出となることでしょう。

＊食事会（十四日）

広島支部では毎月才二日曜日の午後七時より、教会建築資金を集める為に食事会を持って居ります。七月は思いがけず、岩国の軍属の方々が多数出席して下さり皆大喜びでした。

広島支部

食事の後、会を持ちました。演劇部の方が開拓者の服装をして、開拓の様子を演じ、その間にキャンプソング、フォークダンスで楽しんだり、全佐々木姉妹の司会と指導のもとに、宣教師の失敗談を聞いたり、ゲームやハワイの歌を習ったり、なごやかな時を過ごしました。

＊開拓者記念の夕（二十四日）

近くの高須グランドに於いて、私達聖徒によって忘れることの出来ない開拓記念の為の会を持ちました。演劇部の方が開拓者の服装をして、開拓の様子を演じ、その間にキャンプソング、フォークダンスで楽しんだり、全く良く計画されていたので、大変に意義ある一時を過すことが出来ました。

（大原　れい子）

## 楽しい俳句の会

東京西支部、それは武蔵野の片隅、吉祥寺の幼稚園に間借りをしているささやかな支部です。

それでも少しずつ会員が増えて最近百名を越え、一同喜んで居ります。

今迄、他の支部に合併していたMIAのキャンプも今年は初めて西支部だけで奥多摩に行く事になりました。お母様方も参加を希望され、バンガローを大きいのに変えて予約し直す等役員は嬉しい悲鳴を挙げて居ります。

このように私達の東京西支部は未だ小さいものですが、広い年齢層をカバーし、とても家庭的なよい支部と誇りにして居ります。

また今迄にも既に聖徒の道で御覧になって居られる事と思いますが、俳句の会が春に発足し、毎月、句会を開いて活動して居ります。

七月の「夏休み」と「梅雨明（晴）」の二つの題の選句の結果を今回も発表致します。皆様の御批評や御指導を戴ければ幸に存じます。

（小室　敬）

句会から「題」〃夏休み〃

海山へ心もそゞろ夏休み

コリガン姉妹

夏休みバイトの顔は輝やけり

岡本姉妹

勤労の喜び知るや夏休み

小室姉妹

夏休みわれにもあれとサラリーマン

小室姉妹

＊＊＊＊＊

## 普天間支部の発展

＊＊＊＊＊

普天間は沖縄中部に在る町で、沖縄に於けるモルモン教会伝道事業の発祥地である。

二ケ年前、普天間で伝道を開始して以来、今日迄、大きな発展を続け、最近ヒルス長老を支部長に迎えてから、大きく進歩を始め、神権会、日曜学校、相互発達協会、

扶助協会の各組織が活発に動き始めた。

特に去る四月三十日に、MIA主催に依る演劇の夕べは〝リアホナ〟を演出して大勢の観衆を集め、賞讃の声と拍手かっさいの雨を浴びた。なお舞台装置は屋外にて天然の山を背景にして映画のロケーションさながらで出演者各自がベストを尽した事と聖霊の導びきが演劇を成功させた。

沖縄には、普天間支部以外に那覇支部があり、那覇は沖縄の首都であり、地方部長ジャック長老が管理者である。

現在、普天間支部では、会員や求道者が増え、椅子が不足し、建物はせまくなり、宣教師や会員が嬉しい悲鳴をあげている。

（横田光順）

## 前途明るい岡山

ここ一ヶ月のうちに五名の兄弟姉妹が生れ、岡山支部も前途に力強い光明を見出して来ました。

楽しい集い、六月二十二日（日）聖餐式後、旭川上流牧山にて岡野砂田、山本各姉妹のバプテスマが済んでから一同で食事をした。本当に楽しい食事だった。その後、草原で聖典研究会をした。なおこの日の聖餐式の出席率は八十％

建物がほしい、会場の都合により廿六日のMIAは突然とりやめとなった。長老がいない時だったのでどんなにくやしい思いをしたかわからない。でも会場を借りている身だからどうにもならない。だがわざわざ遠い所から来た人には気の毒だった。前の会場も全く同じような結果で追い出された。我々岡山支部はどこまで会場に恵まれないのか。我々はただいつでも自由に集会のできる教会の建物がほしい。これが皆の心からの希望だ。

歓送迎会、七月五日（土）リッシュマン長老と扶助協会の会長であり岡山支部のお母さんとも云うべき森田姉妹の二人の送別会を行う。同時に新任のスラック長老の歓迎会も兼ねる。

翌六日（日）の証会は先月に劣らぬ程のいやそれ以上のすばらしい証会だった。一番最後にリッシュマン長老が証しされた。涙を一生懸命こらえ心からの本当に心からの証しをされているのを聞いて我々は泣いた。このような証しの強い人を、そして我々支部を言葉に云い表わせない程愛して下さったリッシュマン長老をお送りしなければならぬ事は本当に残念だ。

## 教会堂建築の希望

信州の田舎町である松本市ここにも末日聖徒イエス・キリスト教会の小さな一支部が有る。この小さな支部にも益々発展の色がこく成って来た。これは我々松本支部会員にとって一番嬉しい事である。

松本支部が発足したのは確か八年前昭和二十五年頃で有ると思う。その時には兄弟が二名と云う小さなものであった。それより現在に至るまで遅々たる発展で閉鎖されるかの様に思われたが、近頃の支部の発展には目覚ましいものがある。去年より今年現在に至るまで会員と成られた方は二十三名である。総会員数四十九名その内活潑な会員は三十名位である。他の支部とは比べものには成りそうもないがしかし発展の見込があるだけでも我々は大変嬉しい。

毎日曜日、日曜学校終了後松本の繁華街に於いて会員総出、長老二人で街頭伝道を行い一人でも良い人を捜しています。

まだ教会堂が無い為にグッドマン、山形、ブラウ、ウイン、ワンラス長老等は会員と共に協力し土地探索中、教会堂建設資金獲得の手段としては、去年の十二月の「レコードコンサート」で全収入約二万円、また扶助協会主催の「食事パーティー」を毎月第二土曜日の夜に定期的に開催、さらに映画の前売券及び多治見焼の販売等が現在計画中である。

近頃に成っては椅子四〇個、演説台、聖餐式用机、レコードプレイヤー、レコード、マイクロフォン、スピーカー、讃美歌集、オルガン等を購入、特にMIA等では大変有効にこれ等の物が使用されている。

現在松本支部会員全員の希望は、すばらしい神聖な教会堂が一刻も早く建立される事である。

（土屋豊彦）

## 活潑な岡町

宣教師来任、七月三日、ノーマン長老を迎え新地方部長として紹介、十日にはパーキンス、フイリ

ツブス、両長老を、また十四日にはハグ姉妹、札幌より岡町へ、ライト姉妹の後任として迎える。

ＭＩＡ「支部大会」、十九日午後六時半教会の庭園にて「ガーデンパーティ」を催す。

パントマイムや種々のゲーム、タレント及び七月は開拓者の記念の月である所から「アメリカ」の地図を書き、三人の会員より当時聖徒が受けた数々の苦しみを聞く、参会者約五十名。

岡町支部大会、二十日午前九時より神権者と扶助協会を開き、十時より一般大会に移る。教義と聖約八十八章百十八節と百十九節をテーマとしてパック長老管理のもとに六名の信仰の厚い兄弟姉妹に依り「信仰と知識」「忍耐と寛容」「人格について」「求道者を導く態度」「断食の価値」「秩序について」の話あり、ついでパック長老の有益なるむすびの話を承り、午後聖餐式及び証会あり、夜ファイヤサイドで、ライト姉妹、ボール長老、パック長老の送別会を兼ねる。

日曜学校主催　会堂建設資金募集レコードコンサート、二十六日午後六時半より始め聞きなれた曲めづらしい曲等数々のポピュラー音楽を充分楽しむ。

最後に渡米される和田弘子姉妹の　金と緑の舞踊会、六月四日、多

## 室蘭の一ケ月

飾しすばらしい雰囲気の中に次々とホークダンス、ソシャルダンスが行われる。途中の休憩時には牛乳、お菓子をいただき全員楽しくなごやかに初夏の一夜を過ごすことが出来ました。三十二名出席。

晩餐会、十八日、扶助協会の方々が作って下さったサンドイッチをいただいたあと表彰式が行われました。まずロー長老からＭＩＡについてのお話しがあり、続いて会長から賞状　とバッチが次々と渡　されました。今年の表彰者は男の会員五名、女の会員三名、計八名でした。終りにポータ長老からスライドによる南加、東京附近の風景を愉しく見せていただき楽しい時を過ました。二十九名出席。

送別会、二十一日、東京北支部へ転任のポータ長老の送別会をかね食事パーティが行われました。出席三十名。

食事パーティ、七月十九日、午后六時半から資金獲得の為神権会主催で食事パーティが行われました。神権会で準備したチキンライスをいたゞいたあと、ハワイ音楽とロシヤ民謡のレコード鑑賞をして楽しく夏の宵を過ごしました。

出席十四名。

別れの言葉、また会員よりの送り物等有りて無事散会す。参加者約五十名。（阪本幾代）

数の会員求道者が参加してミッシヨン・ホームで行われました。会場を色とりどりのフウセンで装

### 地方部大会スケジュール

１９５８年秋季

| | | |
|---|---|---|
| 沖縄 | ８月１６日 | １７日 |
| 西中央 | ９月２７日 | ２８日 |
| 東中央 | １０月１１日 | １２日 |
| 北海道 | １０月１８日 | １９日 |
| 韓国 | １１月　１日 | ２日 |

１９５９年春季

| | | |
|---|---|---|
| 沖縄 | ２月１４日 | １５日 |
| 西中央 | ３月２８日 | ２９日 |
| 東中央 | ４月　４日 | ５日 |
| 北海道 | ４月１１日 | １２日 |
| 韓国 | ４月２５日 | ２６日 |

１９５９年秋季

| | | |
|---|---|---|
| 沖縄 | ８月１５日 | １６日 |
| 西中央 | ９月２７日 | ２８日 |
| 東中央 | １０月　３日 | ４日 |
| 北海道 | １０月１０日 | １１日 |
| 韓国 | １０月２４日 | ２５日 |

# 伝道本部だより（七月三十一日現在）

## 宣教師移動

ラリー・ポーター長老（横浜）
デール・W・ラスムッセン長老（仙台）
ダビッド・R・ガンダーソン長老（仙台）
ゲーレン・L・ハリス長老（札幌）
デー・L・スケンク長老（札幌）
デルレイ・ブラウ長老（東京南）
マーロン・アンドラス長老（東京南）
ラーリー・ビンガム長老（東京中）
レオン・H・フラ長老（東京中）
マーガレット・ヤマシタ姉妹（本部）
ヴロール・テーラー長老（韓国）
クラーイン・C・キャンベル長老（釜山）
ライマン・R・ゴッドフレイ長老（横浜）

## 入院静養

ウオレース・N・ボーマン長老（七月九日聖母病院）
ロバート・T・スタウト長老（七月九日聖母病院）

## 解任

宣教師任期満了のため次の兄弟姉妹は解任された。

エスター・N・サトー姉妹（六、二七）
ヴァラ・ライト姉妹（七、二五）
ルイス・ムーア姉妹（七月二六）
カロリン・キラウアノ姉妹（七、二六）
ギアリー・ライト長老（七、二一）
福田真長老（七、三一）
浅田恒則長老（七、三一）
紙谷富保長老（七、三一）
遠藤文方長老（七、三一）
ダビッド・ケイス・パック長老（七、三一）
ジェーリー・L・アトキンソン長老（七、三一）
デルバート・ノスチン長老（七、三一）
ロバート・W・ホール長老（七、三一）
アルフレッド・T・ボール長老（七、三一）

## 祝福

大城マサエ（誕生二月三日、父、大城マサヨシ、母、天野さかえ）六月十九日、今井一男兄弟より祝福さる（東京中央）

北野まり子（誕生六月十八日、父北野友幸、母多田まさ子）七月十三日、オリオン・H・ウッド長老により祝福さる（金沢）

北岡千明（誕生一九五六、十一月五日、父、北岡やすを、母、田部みづほ）七月八日、アルフレッド・T・ボール長老により祝福さる（岡町）

阪本純子（誕生五月十一日、父、松本弘、母、阪本晴子）六月八日、アルフレッド・T・ボール長老により祝福さる（岡町）

## 神権授与

| （氏名） | （神権） | （支部） |
|---|---|---|
| 松浦秀明 | 執事 | 福岡 |
| 植原昭喜 | 執事 | 群馬 |
| 西原良男 | 執事 | 広島 |
| 竹内健 | 執事 | 金沢 |
| 川崎栄造 | 教師 | 室蘭 |
| 大橋なかと | 祭司 | 新潟 |
| 杉原一綱 | 執事 | 西宮 |
| 安井福司郎 | 教師 | 西宮 |
| 河村雄弘 | 執事 | 岡町 |
| 安斎洋治 | 教師 | 岡町 |
| 岩国茂 | 教師 | 岡町 |
| 潟沼誠二 | 執事 | 小樽 |
| 前芝やすを | 教師 | 三宮 |
| 山村賜一 | 執事 | 三宮 |
| 蛯川健 | 教師 | 三宮 |
| 松下やすを | 教師 | 札幌 |
| 片岡雅夫 | 執事 | 東京中央 |
| 河原節雄 | 祭司 | 東京北 |
| 北条勝丸 | 執事 | 東京北 |
| 佐藤一三 | 教師 | 東京北 |
| 佐原正 | 教師 | 東京南 |
| 堀田秀司 | 教師 | 東京南 |
| 坂井圭 | 祭司 | 東京南 |
| 笹岡ただよし | 祭司 | 東京西 |
| 小室敬 | 教師 | 東京西 |
| 野村邦弘 | 執事 | 東京西 |

「註」神権授与の月日は四月号以来面接日を記録していたので授権日でないから取消します。

## バプテスマ

山原秀子（阿倍野）
岩崎みずよ（阿倍野）
深江寛（阿倍野）
井上君子（阿倍野）
太田輝雄（旭川）
湊谷美保子（旭川）
重岡キミ子（福岡）
吉宗邦明（群馬）
大山義弘（群馬）
塩沢キン（群馬）
佐藤慰子（金沢）
佐藤百合子（甲府）
駒原良一（松本）
小林幸平（松本）
葛西美栄子（室蘭）
石川元幸（名古屋）
粟津芳子（名古屋）
小幡鋭郎（名古屋）
錦柄重之（名古屋）
丹羽久美江（名古屋）
中島智恵子（名古屋）
鈴木泰一（名古屋）
伊藤墨彦（岡町）
山崎英男（岡町）
山田義明（岡町）
福田珠子（岡町）
科岡邦夫（岡町）
野本とし夫（岡町）
大橋亘（岡町）
藤岡徹（岡山）
岡野芳江（岡山）
山本綾子（岡山）
竹本厳（岡山）
砂田ひろ子（岡山）
遠山哲男（小樽）
奥村みどり（小樽）
おし田しかえ（三宮）
土橋道雄（三宮）
山口展子（三宮）
山根良弘（三宮）
高橋久（札幌）
佐藤弘子（札幌）
苗村やす子（札幌）
成田宏（札幌）
三沢富子（札幌）
谷口かず子（札幌）
千葉孝子（札幌）
高橋洋子（札幌）
佐々木桂子（札幌）
北御門千真（札幌）
市村良一（札幌）
加藤みち子（札幌）
佐藤道恵（札幌）
日野義三（仙台）
天野昭（仙台）
宮嶋恵子（仙台）
丹野義洋（仙台）
千葉幸子（仙台）
石塚愛子（東京中）
本間幸子（東京中）
小沢愛子（東京中）
上原秀子（東京中）
磯村寿子（東京中）
渡辺和子（東京中）
田島大輔（東京中）
畔島智裕（東京中）
武川徳江（東京中）
稲垣高義（東京北）
井上弘（東京南）
佐藤公彦（東京南）
北島博愛（東京南）
伊藤克（東京南）
河内やすえ（桜井）
平野嗣和（横浜）
上地文夫（横浜）
加藤政宏（横浜）
加藤勉（横浜）
桑本勝也（横浜）
国仲義秀（横浜）
長浦すみ子（普天間）
辺上名和子（普天間）
知名文子（普天間）
与古田陽子（普天間）
与古田光栄（普天間）
与古田カメ（普天間）
山川常子（那覇）
上里涼子（那覇）
当真邦夫（那覇）
当真健二（那覇）
アランデー秀子（那覇）
宮良晴子（那覇）
仲尾勝子（那覇）

なおこの外韓国において十五名のバプテスマをうけた方がありました。

# 詩藻

投稿歓迎！

## 大空に

横浜　佐藤静子

なんて醜い世の中なのだろう
どうして自分の得ばかりしか考えないの
あの人に怒ってもだめだ
大人達の作ったこの世の中ですもの
生きて行く事のかなしさが
心の奥までしみ通って……

ふと大空を見た
私は大空にちかう
「雑草のように
　ふまれても
　けられても」
私は起き上る事を
空は教えてくれる
新しい世の中を造りなさいと
私は大空に約束した

## 「我等の責任」

仙台　上野道男

ある人と世の中の汚さ、醜さを
話し合った後に作れる歌

これが世の中なのだ
自分の悪い所をおしかくして
相手の欠点を指摘して相手をののしる
そして相手の気持をいらだたせ
他人の人格ばかりか
自分の品位まで下げてしまう
それが世の中というものだ
だけど僕達は彼等に失望を感じ
不信をもったまゝではいけない
彼等は本当の喜びとはどんなものかを知らないために
ただ目先の利益にのみ眼がくらんでいる
かわいそうな人達なんだ
だからおれたちは互に愛し合って
神の許に於ける深い信頼による愛の喜びは
こんなにすばらしいんだぞ ―と
ほこらかに　快活に
自信をもって彼等に話そう
歓喜のために包みきれずにふるえる声で
同じ神の子であり、我等の兄弟姉妹である彼等が
再び神のみもとに帰れるように
それによって神の栄光が
更に輝きを増すように

# 不可思議なもの――証詞

ドノヴアン・ハイドン・ワルゼン作
村田洋子訳

不可思議なもの、それは証詞
　どこに行ってもあなたと共に、
働く時には、喜び与え、
　家にいても楽しみを得る
遠い国にもついて行く、
　あなたの逢う人すべてにそれを教えてあげ
あなたの知る人すべてにそれを分けてあげよう
　それでも証詞はなおさら大きくなり
あなたと共に強くなる

　人にそれを譲り分けてごらんなさい
するとそれは前よりももっと大きくなる
　まるで生き物のよう
人の心に永遠に清らかな愛を満してくれる
　あなたはそれが見えないけれど
それがあなたの側にいる事を強く知っている
　それがあなたの心を燃え
謙虚な祈りにその力を悟る
　それは人の弱い心をとらえ
あざけるように打ち勝って立つ
　確信と力を与え
真理を正義の力ととりでにしてくれる
それは弱い人を永遠に強くし
己がごとを忘れて
いまだ知らざる喜びの日々に心をもたげさせてくれる

＊＊＊＊＊

# 短歌

＊＊＊＊＊

## 北京時代

東京北　高木　とみごろう

新調の洋服を着しこころよさ
　誰にも言わでなつかしみ居り
この頃は北京住いになれそめぬ
　炸醤麺（チヤヤチヤンミエン）などしたしむわれは
ひたぶるに物ほしくなり街に出て
　點心（テイクオル）食う夜もあるかな
静かなるあしたにあるか駡媽（アマ）のつくる
　朝げなれども不平起らず
金色のいらか重なる紫禁城を
　いまさらながらあかず眺むる

## 図書案内

| | |
|---|---|
| 教義と聖約・高価なる真珠・モルモン経合本 | 1100円 |
| 教義と聖約・高価なる真珠 | 300円 |
| モルモン経（新訳） | 300円 |
| 新旧約聖書（口語体・文語体） | 300円 |
| 回復された神の教会（神権会用） | 150円 |
| 完成への道 | 200円 |
| 初等協会教科書 | 150円 |
| 扶助協会手引 | 50円 |

### 日曜学校

| | |
|---|---|
| 福音の実践 | 150円 |
| 古代アメリカの生活 | 100円 |
| 聖典中の指導者 | 150円 |
| 霊的成長（2） | 150円 |
| 新求道者のための福音の根本原則 | 25円 |
| 家督権の祝福 | 100円 |

### M I A

| | |
|---|---|
| 役員指導者の手引 | 100円 |
| 我等の指導者の言葉・福音と生活 | 100円 |
| モルモンとは | 100円 |
| 演劇指導者基礎知識と脚本集 | 75円 |
| 演説が上手になる法 | 150円 |
| 社交ダンス必携 | 160円 |
| 楽しいホーク・ダンス | 50円 |

### 讃美歌及び歌集

| | |
|---|---|
| 末日聖徒讃美歌 | 300円 |
| 末日聖徒讃美歌抜萃 | 30円 |
| 子等は歌う | 100円 |
| レクリエーション歌集 | 400円 |

註文は各支部長へ

## 編集言

◎毎号掲載するマッケイ大管長とアンドラス伝道部長のメッセージは、どちらも換えがたい私達の羅針盤ですから是非熟読していただきたい。

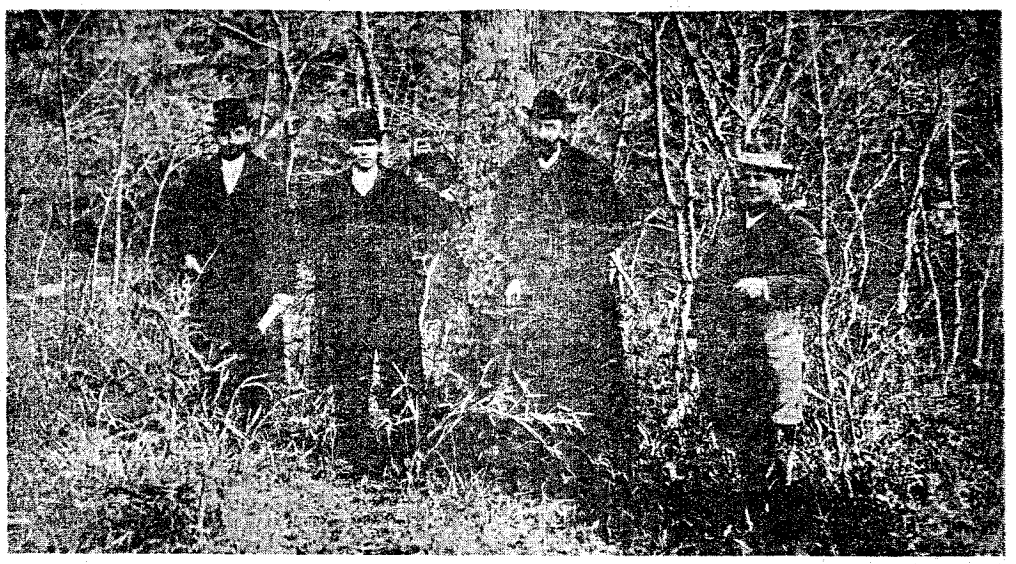
◎今や北部極東伝道部は素晴しい発展に日日進みつつあります。この実状に添うよう私たち会員は一層協力を惜しまないよう努力したいものと思います。

◎各支部からの投稿が不活潑のようです。支部活動の実状でも、証詞でもお互に誌上で交換するところに進歩があると思います。〆切期日厳守しながら投稿いたしましょう。そしてこの雑誌を立派なものに致しましょう。

◎「聖徒の道」は私たちの「道しるべ」であります。

聖徒の道　第二巻九号
一九五八年九月一日発行
定価一ケ年三百円　一部三十円
編集兼発行人　ポール・C・アンドラス
発行所　東京都港区麻布広尾町十四
末日聖徒イエス・キリスト教会
北部極東伝道部

聖徒の道
一九五八年三月十七日 第三種郵便物認可第二巻第九号
編集人 ポール・C・アンドラス
発行人 末日聖徒イエス・キリスト教会
発行所 北部極東伝道部 東京都港区麻布広尾町十四



左からエンサイン長老，テイラー長老，グラント長老，ケルチ長老

1901年9月1日の断食日に当る日曜日—日本に到着後約2週間余りになる日であるが、この日宣教師たちは家を出て、大むね午前11時頃祈禱会を催すために森に入って行った。20分程歩いてから、彼らは横浜の南部、外国人住宅の立ち並ぶ一帯と入江との間に横たわる丘に茂るひっそりとした森に来た。こゝで彼らは讃美歌「感謝す予言者」を歌って開会し、各宣教師は代るがわる祈禱を捧げた。次に讃美歌「恐るな聖徒よ」を歌い、グラント長老（後に当教会第七代目の大管長となる）が福音を宣べ伝えるため日本の地を献納するとの祈禱を捧げた。上の写真はこの記念すべき折に撮影されたものである。